

『役行者靈驗記』——翻刻と解題——

土屋 順子

- 底 本 実践女子大学文芸資料研究所蔵本。
- 書 型 大本二卷二冊。
- 表 紙 縹色無地。二十六・五糎×十八・四糎。
- 題 簽 上巻は欠落。下巻は後補墨筆題簽で、「役行者靈驗記下」。縦十七・四糎×横三・二糎。
- 序 題 「役行者靈驗記叙」。
- 目 録 題 「エンギヤウシャレイケンキ役行者靈驗記卷上」。下巻は目録題は無く「下巻」とだけある。
- 内 題 「役小角靈驗記卷下」。上巻は無し。
- 尾 題 「役小角靈驗記卷上(下)終」。
- 版 心 「○行者靈驗記卷上(下) (丁数)菅生堂」。(「菅生堂」の字は黒口の中にあつて白ヌキ)。
- 序 文 「享保六辛丑年正月布瀧星日／河南九華山六隠乞土蓮体書」。

構成 上卷三十二丁(序一丁「一」、目錄三丁「一」「二」「三」、本文二十八丁「一」「二」…「廿八」)。

下卷三十三丁半(本文三十三丁「一」「二」…「三十三」、刊記半丁(裏見返し))。

本文匡郭 四周单边。十八・七糎×十四・三糎。

一面行数 序九行、本文十行。

用字 序 漢字交じり片仮名 ルビあり。

本文 漢字交じり片仮名 ルビあり。

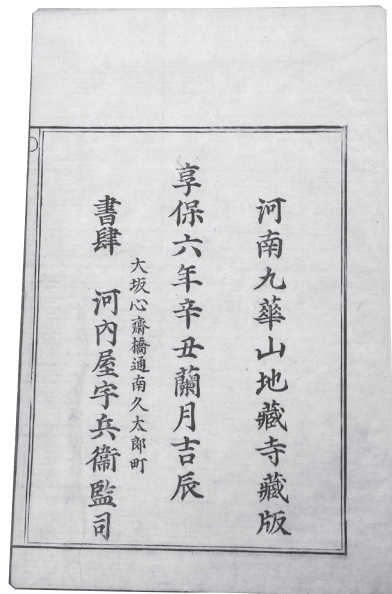
作者 蓮体。

挿絵 無し。

刊記 「河南九華山地藏寺藏版／享保六年辛丑蘭月吉辰

／書肆／大坂心齋橋通南久太郎町 河内屋宇兵衛

監司」(裏見返し)。



本書の書誌について、既に書誌解題を報告しているが(調査報告五十「年報」第15号、平成8年3月)、その後管見に入った三点、大妻女子大学蔵本・酒田市立光丘文庫蔵本・金沢大学附属図書館蔵本を追記する。

先の報告では、該本が初版で、国立国会図書館蔵本と同版とした。しかし、大妻女子大学蔵本の刊記は「河内九華山地藏寺藏版／享保六年辛丑七月吉辰／書肆／大坂心齋橋通南久太郎町 河内屋宇兵衛司配」(裏見返し)とあって、該本と異なる。何故二種の刊記が存在するのか判然としないが、今は報告に留めておく。

静嘉堂文庫蔵本の刊記は「寛保三歳亥七月吉旦／京六角通御幸町西江入町／書林／岡権兵衛」とし、後版。また静嘉堂文庫蔵本・大谷大学蔵本は、版心部「菅生堂」の文字が削除されていて、初版とは考えにくい。

酒田市立光丘文庫蔵本・金沢大学附属図書館蔵本は、天保三年再刻本。刊記には「天保三壬辰夏再刻／書肆／江戸日本橋通老町目 須原屋茂兵衛／京寺町通三条下ル 著屋宗八／大坂心齋橋通安堂寺町 秋田屋太右衛門／同北久宝寺町 秋田屋源兵衛／同九之助橋通 秋田屋良介」とある。

作者の蓮体は、河内国生まれの僧侶(寛文三年(一六六三)～享保十一年(一七二六))。正徳五年(一七一五)五十三歳のとき、郷里河内国地蔵寺に退隠し、庶民教化に励んだ。教化書を中心に、左記にあげる約47の作品を確認できる。

役行者靈驗記 享保六刊

弘法大師和讃 元禄三刊

四分律行事鈔冠註

延命寺記録

光明真言金壺集首書 享保六刊

声字実相義輯録

河州九華山地蔵寺雜録

光明真言句義略釈

諸儀軌伝授次第目録 享保三刊

観自在菩薩冥応集 宝永元年

古則草紙

真言開庫集 貞享五刊

観自在菩薩冥応集続 宝永年間

護摩要鈔

十一面薩埵法

観音新験録冥応集

護摩略要秘訣 享保七

住心品疏略解 元禄十五刊

観音冥応集 宝永三刊

三婦懺悔功德勘文

受壇記 天和元

逆修講功德縁起 享保十九

三教指揮聞書

浄厳大和尚行状記 元禄十五

逆修略作法

三教指揮刪補冠註

浄厳大和尚平常雅訓章 元禄十五

礦石集 元禄五序、同六刊

四教集解常聞記 延宝五

浄厳大和尚靈徳記 元禄十五

送終作法

秘藏宝鑰見聞 延宝九

法華新註冠註補註

即身成仏義冠註補註 享保五

秘密安心往生要集 享保四刊

妙經新註聞講記

続礦石集 享保十序、同十二刊

毘沙門天王秘宝藏 享保二刊

瑜伽課誦

大課誦

不空絹索毘盧遮那大灌頂光真言 享保六

落又日記

大日經疏対受聞書 元禄七奥書

宝篋印陀羅尼經和解秘略釈 宝永七

蓮体附法七十許人録 享保年間

伝授補忘記 貞享五

宝篋印陀羅尼略解

勸化本と蓮体について、後小路薫氏「教化の旅と説話―蓮盛と蓮体の行脚―」（『国文学解釈と鑑賞』第55巻第3号、平成2年3月）によって紹介された。作者蓮体の活動については、関口静雄・寺津麻理絵両氏による詳細な解題が備わる。「〔資料〕惟宝蓮体『真言礦石集』翻刻と解題（その一）」～「同（その四）」（『学苑』八六四号、平成24年10月・八六九号、平成25年2月・八七六号、平成25年10月・八八一号、平成26年3月）。

地蔵寺と蓮体について、山崎淳氏（翻）地蔵寺蔵『和漢合運』蓮体自筆部分―翻刻と解題」（『上方文芸研究』8号、平成23年6月）、同「（シンポジウム）寺院に所蔵される近世の文献―地蔵寺と蓮体の場合」（『仏教文学』36・37号、平成24年4月）他、一連の報告がある。

『役行者靈驗記』は享保六年刊行。役行者こと役小角（舒明天皇六年（六三四）伝）大寶元年（七〇一）は、飛鳥時代から奈良時代の呪術者で修験道の開祖とされている。伝えられる人物像は後世の伝説によるところが大きい。本書も役行者に関する靈驗を類聚したもので、上巻は一話から二十三話、下巻は二十四話から四十三話を収録する。序文に



は「頃載^{コノコロ}苦行^{クコウ}ノ者^{モノ}少^{スクナ}カラズ。皆^{ミナ}其^{コノ}本^{ホン}ヲ忘^{ワス}レテ枝葉^{シヨウ}ヲ攀^{ヨソ}。故^{コト}ニ今^{イマ}一^{ヒト}リノ近^{ゴンシ}士^シノ需^{モトメ}ニ依^{ヨリ}テ行^{ユク}者^{モノ}ノ靈^{レイ}驗^{ゲン}ヲ輯^{アツ}メ。兼^{カネ}テ邪^ヤ正^{テイ}ヲ弁^{ベン}ジテ。時^{トキ}俗^{ソク}ノ迷^{マドヒ}ヲ解^{トカ}ントス。而^{シカ}モ強^{シイ}テ抑^{ヨブ}シセズ。且^カツ神^{カミ}明^{メイ}ノ徳^{トク}ヲ讚^{サン}ズルコトハ。予^ヨモ亦^{モト}時^{トキ}ニ違^{タガ}ハズ俗^{ソク}ニ背^{ソム}カザレバナリ」と、成立の事情を記す。「近士」が誰を指すのか不明だが、拠点「地藏寺蔵版」として、大坂書肆河内屋宇兵衛から刊行されている。

凡例

一 底本には、実践女子大学芸資料研究所蔵本を用いた。

一 校訂にあたっては、原本の面目をできる限り保てるようにつとめたが、通説の便を考慮して、次の方針に従った。

イ 本文の翻字は、原則として原文に従った。
ロ 句読点は極力原文の調子を生かすようにつとめた

が、若干私に改めたところもある。

ハ 漢字については、常用漢字表にあるものは、原則として現在通行の字体に改めた。

ニ 仮名遣い・漢字の振り仮名は原文の通りにし、著しく通則からはずれているものは後注に記した。

ホ 脱字・衍字と思われるものはそのまま記し、「ママ」とした。但し、「^レ」を用いて私に補ったところもある。

一 文字の表記について

反復記号は底本の通りとした。

二行割注は「」を用いて表記した。

左訓は（ ）を用いて当該字の下に表記した。

丁の移りは（ ）を用いて丁の表裏を表記した。

特殊な合字・連体字は通行の文字に改めた。

(例) ム↓シテ ㄣ↓コト ㄱ↓トモ

書名及び本文中の「役行者」は「役行者」と統一した。

役行者靈驗記叙

古賢イヘル言コトアリ。天ハ不レ能ハ冬ハ蓮ニシテ春ハ菊ニナルコト地ハ不レ能ハ洛ニ浴ス。洑ニ貉ニ。是ヲ以テ聖人ハ不レ違ハ時ニ不レ違レ俗ニ所ニ以テ道ト。西天ノ真人五濁ニ応現シテ法雷空シカラズ。折伏撰受宝車ノ両輪馳騫ハハセハスシ。踰露秘密頓漸ノ二機開悟ス。其ノ総持門ハ天魔悪類ヲ降伏シテ頓ニ悉地ヲ成就シ。能ク五類諸天二教勅ス。況ヤ藥又魔魅ヲヤ。優婆塞ハ持明悉地ヲ得テ能ク鬼神ヲ驅使シ。又未世強剛ノ衆生ノ為ニ。金剛藏王ヲ（一オ）祈リ出シテ吾朝ノ守護神トス。此モ亦時俗ニ順ズレバナリ。頃載苦行ノ者少カラズ。皆其ノ本ヲ忘レテ枝葉ヲ攀ル。故ニ今一リノ近士ノ需ニ依テ行者ノ靈驗ヲ輯メ。兼テ邪正ヲ弁シテ。時俗ノ迷ヲ解ントス。而モ強テ抑止セズ。且ツ神明ノ徳ヲ讚ズルコトハ。予モ亦時ニ違ハズ俗ニ背カザレバナリ

昔

享保六辛丑年正月布瀝星日

河南九華山六隱乞士蓮体書(一ウ)

役行者靈驗記卷上

目錄

- 一ニハ 一ニハ 役行者生緣氏族(ウヂ)ノ事
- 二ニハ 二ニハ 撰州箕面寺ノ緣起行者龍樹ノ淨土ニ神遊ノ事
- 三ニハ 三ニハ 行者前生所持ノ劍杵感得ノ事
- 四ニハ 四ニハ 行者鬼神ヲ驅使(カリツカフ)シ大峯葛城ノ間ニ石橋ヲ架シムル事
- 五ニハ 五ニハ 行者ヲ伊豆大鳴ニ配流ス 並ニ富士山修行ノ事
- 六ニハ 六ニハ 行者一言主ノ神ヲ咒縛シ玉フ事(一オ)
- 七ニハ 七ニハ 行者大唐国ニ飛去リ玉フ事
- 八ニハ 八ニハ 道昭律師新羅国ニ於テ行者ニ相見ノ事
- 九ニハ 九ニハ 行者三国修行 金峯山藏王權現出現ノ事
- 十ニハ 十ニハ 大峯八本天竺国ノ山ナル事
- 十一ニハ 十一ニハ 日本ハ密教相應ノ国ナル事
- 十二ニハ 十二ニハ 道昭入唐異說ノ事
- 十三ニハ 十三ニハ 弘法大師役行者同一體ノ說 附タリ 大師御影ノ讚ノ事

十四ニハ 金剛藏王菩薩本説ノ事（一ウ）

十五ニハ 天竺飛來峯ノ事

十六ニハ 金剛山法起菩薩淨土ノ事

十七ニハ 葛城ノ神異説 並ニ 泰澄和尚咒験ノ事

十八ニハ 大峯葛城ニ女人ヲ禁ズル事 並ニ 持咒ノ法軌

十九ニハ 金峯山日藏上人藏王ノ教ニ依テ天満天神ノ住城ニ至リ 並ニ 天堂地獄ヲ見玉フ事

二十ニハ 役行者優婆塞形ノ事

廿一ニハ 聖 宝尊師再ビ大峯ノ路ヲ開キ玉フ事

廿二ニハ 弘法大師役行者蘭契ノ事（二オ）

廿三ニハ 大峯鐘掛ノ由来

下卷

廿四ニハ 河内觀心寺役行者靈驗ノ事

廿五ニハ 行者ハ悉地成就ノ持明仙人ナル事 附タリ 日本古今諸仙ノ事

廿六ニハ 役行者ノ眷屬前鬼後鬼ノ事

附録

廿七ニハ 天狗ノ弁

廿八ニハ 天狗ノ形貌本説 附タリ 神社考妄説ノ事（二ウ）

廿九ニハ 天狗ノ通名別名住処ノ事

三十二ニハ 愛宕山太郎坊神社考矛盾ノ説ノ事

三十一ニハ 愛宕山大権現出現ノ本説

三十二ニハ 愛宕山権現託宣ノ事

三十三ニハ 金峯山権現託宣ノ事 並 四神ノ御歌ノ事

三十四ニハ 古來天狗ノ事ヲ記セル書ノ事

三十五ニハ 戒急乘緩ノ四句分別ノ事

三十六ニハ 天狗人ニ印真言ヲ教ヘシ事

三十七ニハ 天狗ニ攫レシ人ノ事(三オ)

三十八ニハ 唐ノ天狗日本ニ渡リ恥カキシ事

三十九ニハ 百鬼夜行。一條棧敷鬼ノ事

四十ニハ 稲荷明神出現ノ本説大福神ナル事

四十一ニハ 稲荷明神ハ東寺ノ鎮守ナル事

四十二ニハ 夷三郎出現ノ本説釣ヲ垂レ玉ヲ形像 並 大福神ナル事

四十三ニハ 此書撰集ノ微志。伊勢ヤ日向ノ物語ノ事(三ウ)

△一 役行者生縁氏族(ウヂ)ノ事

役優婆塞名ハ小角。賀茂役公氏大和国葛城ノ上郡茅原ノ郷ノ人ナリ。彼郷ニ一リノ婦女アリ。人王三十五代舒明天皇ノ六年癸巳ノ三月。夢ニ天ヨリ一ツノ独股杵降りテ。口ニ入ルト見テヨリ孕ミテ。十月ヲ経テ同ク七年甲午

ノ春。正月朔日一人ノ男子ヲ生ズ。面貌ヘヲモテ魁梧ヘオホキニニシテ。形体ヘスガタヘ頗ル世人ニ異ナリ。十三歳ヨリ後歩行ノ間。雨衣裳ヘコロモヘヲヌラサズ。足ニ蠱蟲ヘムクメクムシヘヲ不踏。十七歳ヨリ藤ノ皮ヲ衣トシ。松ノ葉ヲ食トシテ。華ヲ摘菓ヲ拾フテ。金剛山ニ登リ。微妙ノ音ヲ聞テ。声ヲ尋ネテ法起菩薩ノ淨(一オ)土ニ到リ。說法ヲ聽聞シテ三昧ヲ発得シ。一字ノ堂ヲ建立シテ。法起菩薩ノ尊像ヲ安置シ。弗庵ヘカヤノイホリヘヲ締ンデ居シ玉フ。今ノ行者坊ハ其跡ナリ。蓋シ宿智ノ撼ストコロ。人教ザレドモ。自密乗ヲ感悟シテ。常ニ孔雀明王ノ咒。不動威怒ノ真言ヲ持誦シテ。悉地ヲ得。五色ノ雲ニ乗ジテ。上ハ四王自在処ニ登リ。下ハ龍宮仙府ニ遊ブ。今ノ当麻寺ハ小角ノ家地ヘイエナリ。昔ハ河内ノ山田村ニアリ。天武帝ノ時ニ靈感アツテ。今ノ処ニ移シ造ルト云リ。

△二 撰州箕面寺ノ縁起

齊明天皇ノ四年 戊午。行者二十五歳ニシテ。三月十七日ニ撰州(二ウ)箕面山ニ登ル。澗ノ流ニ沂。テ山ヲ越川ヲ渡リ尋ネ陟ルニ。三重ノ瀑布アリ。最上ノ瀧ハ雄瀧ナリ。高サ一丈余ナリ。杖ヲ立腰ヲカケテ攀躋リ玉フ。其ノ杖ノ跡今ニアリ。澗ノ底ニ三丈余ノ黒蛇蟠リ臥ス。時々ニ出テ人ニ見ユ。第二ハ環路ノ瀧ナリ。岩石飛泉珠ヲ串ルガ如シ。第三ハ雌瀧ナリ。高サ十五丈余布ヲ曝ルニ似タリ。頂上ノ壺ハ龍穴ナリ。其瀧ノ色斑ニシテ長三丈余ナリ。動スレバ黒雲ヲ吐テ雨ヲ降ス。爰ニ行者至心ニ誠ヲ致シテ勤修ヘツトメスルニ。同年四月十七日ノ夜夢玉ハク。龍穴ノ底ヲ知ニタメニ。利剣ヲ編デ身ニ著シ。長繩ヲ腰ニ付テ澗中ニ入沈ムコト。一里バカリト思フニ。一ノ城郭アリ。(二オ)石門ヲ固メタリ。暫ク佇立シテ聞玉ヘバ。羣麈ヘカマビススキノ声ナクシテ。妓樂ノ韻キ幽ナリ。門前ニ跪テ真言ヲ念誦スルコト一洛又遍シ玉ヘバ。門内二人ノ声シテ問テ云ク。門外ニ咒ヲ誦スルハ誰人ゾヤト。答テ曰ク日本国役優婆塞行者ナリ。カク問人ハ誰ソヤ。内ヨリ答テ曰ク我ハ是德善大王ナリトテ。即チ門ヲ開イ

テ行者ヲ請ジ入レ。龍猛菩薩ノ淨土ニ到ラシム。大王ノ左右二十五ノ金剛童子圍遶セリ。四方ヲ見向セバ。重門
 高樓閣臺ヲ並ベ檐ヲ聯タリ。皆以テ七宝莊嚴シテ。金台玉ノ階。宝ノ池。優曇羅花。拘物頭花。奇香秘辭トシテ。
 琪樹行列シ。靈禽(アヤシキトリ)異鳥(メツラシキトリ)和雅(ヤワラカナル)ノ音ヲ出シテ妙法(ニウ)ヲ囀リ。宝幢
 幡蓋。薰風(ニホヒノカセ)ニ飄飄シ。摩尼ノ燈。瞻蔔ノ華光。明閃燦(キラメク)シテ。心モ言モ及びガタシ。甘
 露醍醐ノ妙飲食。宝器ヲ陳テ其數不レ知。殿ノ前ゴトニ。一丈余ノ錫杖ヲ立タリ。時至レバ振ハザルニ自ラ鳴ル。
 正面ゴトニ丈余ノ鼓(ツ)ミシ。磬(キン)ヲ懸ク。刻限ニナレバ打ザルニ微妙ノ音ヲ出ス。菩薩聖衆天人龍鬼其ノ中
 ニ充滿セリ。中央ノ宮殿ノ内ニ七宝莊嚴ノ床アリ。其ノ上ニ龍樹菩薩。大弁才天女儼然トシテ坐シ玉ヘリ。此時德
 善大王仏前ノ香水ヲ取テ。行者ノ頂上ニ灑イテ。頂ヲ摩テ曰ク。汝本所ニ還テ。力ノ任シホド意ニ任セテ興隆セ
 ヲト。行者身心適悦シテ。水ノ上ニ浮ミ升ルト思ヒ(三才)玉ヘバ夢ハ覺ヌ。行者大ニ悦ンデ。同行ノ義覺義賢ニ
 對シテ夢ヲ語り。感涙ヲ流シ玉ヘリ。其ヨリ不日ニ瀧ノ下ノ西ノ側ヲ点定シテ。荊棘ヲ刈払ヒ。巖石ヲ平ゲテ。自
 ラ草堂ヲ構ヘ。等身ノ龍樹菩薩。並ニ弁才天女ノ像ヲ造リ顯シテ。同年十月十七日甲午ヲ以テ。紅葉ヲ折薪ヲ樵テ。
 開眼供養ジ玉フ事竟ヌ。復徳善大王。十五金剛童子等ノ護法神ノ為ニ。小社ヲ作りテ堂ノ東北ノ角ニ安置セリ。然シ
 テ昼ハ瀧ノ上ニシテ。孔雀明王ノ咒ヲ誦ジ。夜ハ瀧ノ下ニシテ。大聖不動明王ノ咒ヲ誦ズ。山花爛水三時ノ闕伽
 不懈。三密ノ觀行闕ルコトナシ。其ノ勤行ノ躡ハ瀧ノ頂ノ東西ニ高処。並ニ瀧(三ウ)ノ下ノ南北幽閑ノ地是ナリ。
 カクノ如ク練行シテ。二十余年ヲ経玉ヘバ。矜伽羅織多迦ノ二童子。八部衆等晝夜ニ來リ給仕シ宿衛(トマリマホル)

△三 行者前生所持ノ劍杵ヲ感得ノ事

天智天皇六年乙卯行者三十四歳ニシテ。和州大峯ニ攀躋テ修行シ玉フ時。劍ノ嶽ニ至ルニ。一ノ骸骨ノ五体分散セズシテ。長九尺五寸ナルアリ。左ノ手ニ独股杵ヲ執リ。右ノ手ニ利劍ヲ執テ仰臥ス。眼中ヨリ樹出生タリ。行者是ヲ見テ劍ト杵トヲ取ントシ玉フニ。山岳ハ動トモ取コトアタハズ。行者大ニ怪ミテ本尊ニ祈誓シ玉フニ。本尊夢ニ告玉ハク。此ノ(四オ)骸骨ハ汝カ前生ニ此峯ニシテ。修行セシコト七生ナリ。其第三生ノ遺骸ナリ。汝今千手陀羅尼五遍。般若心經三卷ヲ誦ジテ祈請シテ取ルベシト云云。夢覺テ教ノ如クシテ取ルニ。骸骨手ヲ啓テ劍杵ヲ授ク。其ヨリ執持シテ一生身ヲ離チ玉ハズ持(モチ)シ玉フ。同々天皇ノ十年三十八歳ニシテ金峯山ニ登リテ修行シ玉フ

△四 行者鬼神ヲ驅使ヘカリツカフシテ。大峯葛城ノ間ニ石橋ヲ架シムル事。附タリ一言主神行者ヲ讒スル事

持統天皇ノ九年丙申六十三歳ニシテ。金峯山ト金剛山トヲ往来ノ為ニ。鬼神ヲ驅使テ石橋ヲ架シムルニ。葛城ノ一言主ノ(四ウ)神行者ニ白ク。我形極メテ醜シ。昼ル出ルコト憚リアリ。夜々ニ造ルベシト。行者許シ玉ハズ。尚昼夜ニ早ク作ルベシトノ命ナリ。神行者ノ咒力ヲ恐レ。驅使ル、コトヲ悲シンデ方便ヲ以テ。禁中ノ宮人ニ託シテ讒スラク。役優婆塞ハ神力不思議ノ人ナリ。王位ヲ傾ント謀ル。両葉ヲ断ザレバ將ニ斧柯ヲ須ントスト。爰ニ天皇大ニ驚キ玉ヒ。則チ勅使ヲ下シテ行者ヲ捉ントスルニ。虚空ニ飛去リテ凡人捉フルコトヲ得ズ。空ク還リ奏ス。是ニ依テ行者ノ老母ヲ捕ヘテ禁獄シ玉フニ。行者至孝ノ思ヒ悲歎ヘカナシミナケクニ不堪。母ヲ救ンガ為ニ自ら來リ圍圍ニ入り玉ヘリ

△五 行者ヲ伊豆ノ大嶋ニ配流ス 富士山修行ノ事(五オ)

同十一年丁酉二月十日。勅シテ伊豆ノ大嶋ニ流シ遣サル。行者勅命ニ違スルコトヲ得ズ。大嶋ニ住スルコト三年。昼ハ嶋ニ居シ。夜ハ駿河国富士ノ峯ノ登リテ修行シ玉フ。然ルニ葛城ノ神猶後難ヲ恐レテ。又宮人ニ託シテ奏スラク。行者ヲ早く殺害シ玉ヘ。存命セバ天下危カレベシト「一説ニ韓ノ広足讒スト云」。公家又神ノ讒言ヲ用テ。文武天皇ノ四年庚子十月二十五日。勅使ヲ下シテ。伊豆ノ嶋ニシテ行者ヲ召出シテ誅セントスルニ行者少シモ驚キ恐レ玉ハズ。勅使ノ前ニ跪テ頭ヲ申テ討シムルニ。刀杖段々ニ折レテ頭ハ少シモ損ズルコトナシ。行者刀杖ヲ手ニ取テ刃ヲ舐リ玉ヘバ。刀皆卷翻リス。行者ノ曰ク(五ウ)アヤシキカナ。罪ナフシテ重々ノ勅勘ヲ蒙ルコトト。勅使大ニ驚キ殺スコトヲ得ズシテ。早く還リテ此由ヲ奏ス。天皇博士ヲ召シテ占ハシム。其詞ニ云ク天皇宜ク欽ミ崇メ玉フベシ。是凡人ニアラズ。大聖者ナリ。早く罪ヲ免シテ都ニ迎ヘ。尊重供養シテ心ニ任セテ修行セシメ玉フベシト云。其ヨリ勅免ヘラユルシアツテ迎ヘ請ジテ尊敬ヘウヤマヒシ玉フ

△六 行者一言主ノ神ヲ咒縛シ玉フ事

行者一言主ノ神ノ讒言ナリト知テ。咒力ヲ放テ葛城ノ神ヲ縛ス。所持ノ両咒ヲ誦ジテ七遍咒シテ。高声ニテ曰ク。縛スルコト遅シト。時ニ明王石索ヲ以テ神ヲ縛ヘシバリテ出来レリ。(六オ)行者誓テ曰ク。将来ニ驥力我ニ等シキ聖者アラバ。此縛ヲ解ベシ。若然ラズンバ弥勒ノ出世ニ今縛ヲ解玉フベシトテ。遙ノ谷ノ底ニ投棄玉フ。今金剛山ノ東ニ一言主ノ谷ト云是ナリ。行者左右ニ二語リ玉ハク。是當時ノ憤ヲ報ルニハアラズ。将来讒佞ノ者ナク天下ヲ安穩ナラシメン事ヲ思フ故ナリト。件ノ谷ノ底ニ長二丈余ノ黒蛇。衰ヘタル貌ニテ地ニ伏シ臥セリ。若雨フラントスル時ハ吼ル音アリ。蛇ヲ見ル人ハ凶事ニ逢。音ヲ聞人ハ不祥ヲ致スト云リ。天孫本紀ニ云ク。速刺利主神又

ハ一言主ト云。葛城ノ国ニ住。其ノ業奸妄。一リノ美女ヲ生ム。速刺等媛ト云。父ノ神姪レ之。余時天ヨリ高震鬼神降リテ。(六ウ)一言主ノ神ヲ撃テ殺サントスルニ死ナズ。爬斬レ凝身ト成リ。貌醜ト成テ諸神等ニ見ルコトアタハズト云云。是葛城ノ神ノ邪神ニシテ状醜キ本説ナリ

△七 行者大唐国ニ飛去リ玉フ事

文武天皇ノ大宝元年正月一日。行者大唐ニ渡ラバヤト思シメシ。箕面ノ徳善大王ノ社ノ前ニシテ。其旨ヲ啓白シ玉ヘハ。社ノ内ニ哭泣音聞ヘテ。内ヨリ俄ニ猛火發テ燃。行者一度咒スルニ火炎忽ニ消テ損ナシ。時二行者六十八歳ニシテ草座ニ坐シ。母ヲ鉢ニ坐セシメテ。大唐国ニ飛去リ玉フト云リ。或説二行者大唐ニ渡ラントテ。河内ノ譽田八幡宮ニ詣テ祈リ玉(七オ)ヘバ。大菩薩告テ曰ク。蓬萊之薬モ不レ嘗無レ益。崑崙ノ玉モ不レ琢不レ宝ト。是ニ於テ決然トシテ唐ニ渡リ。崑崙山ノ仙窟ニ入ルトイヘリ

△八 道昭律師新羅国ニ於テ行者ニ相見(アヒミル)ノ事

或記ニ曰ク本朝ノ道昭和尚入唐シテ。処々ノ靈地ヲ順礼シ。五百ノ賢聖ノ請ニ依テ。新羅寺ニ住シテ。法華経ヲ講讀シ玉フニ。毎ニ神仙多ク来リテ。説法ヲ聽聞スル中ニ第三ノ仙。和国ノ語ヲ以テ論議ヲ發ス。和尚問テ曰ク。本國ノ語ヲ以テ疑ヲ拳ルハ誰人ゾヤ。答テ曰ク。大日本国金峯山金剛山富士山等ノ行者。役優婆塞ナリト。和尚(七ウ)即チ座ヨリ降リテ。本國ノ事ヲ語リ涙ヲ流シ玉フ。行者ノ曰ク我此土ニ来テ年月ヲ送ルトイヘドモ。三年ニ一度ハ必ス本國ニ還テ。三ノ峯ヲ練行ス。本國ノ恩ヲ忘レザル故ナリト

△九 行者三國修行 金剛藏王出現ノ事

或記二曰ク行者ハ三國修行ノ人ナリ。初生ハ天竺。次生ハ唐土。次ニハ日本國伊予國石槌山ニ於テ苦行ス。次ノ生ニハ伯耆國三徳山ニシテ練行シ。次ノ生ニハ金峯山ニ於テ精勤ニ修行ス。初一七日ノ間俯伏ニ臥シテ心経ヲ誦ジ玉ヘバ。地藏菩薩出現シ玉フ。行者ノ曰ク个様ノ柔軟ノ相ニテハ。末世強(八才)剛(コハキ)ノ衆生ヲ化度シ玉フコト叶フマジトテ。劍ヲ以テ打払ヒ捉テ遙ニ擲玉ヘバ。菩薩即チ伯耆ノ大山ニ飛玉フトイヘリ。或ハ吉野ノ投地藏トハ是ナリトカヤ。又一七日仰臥シテ心経ヲ誦ジ玉ヘハ。弥勒菩薩出現シ玉フ。此モ亦行者ノ心ニ叶ハザレバ打払ヒ玉フ。又一七日立テ眼ヲ瞋リ齒ヲ切テ心経ヲ誦ジ玉ヘバ。金剛藏王出現シ玉ヘリ。青黒(アホクク)ロク(ムス)忿怒(イカル)ノ相(サウ)ニシテ。左ノ手ハ劍印ヲ結シテ腰ヲ托ヘ。右ノ手ニ三股杵ヲ執テ。巖窟ヨリ出テ言ク。昔ハ靈山在テ法華経ヲ説。今ハ金峯山ニシテ藏王ノ身ヲ現スト。即チ虚空ヲ踏三股幅ノ中ニ入玉フ。行者大ニ悦ビ玉ヒ。是コソ末世相応ノ能(ハウ)化ナレトテ。即 栢楠木ヲ以テ。等身ノ藏王ノ形像ヲ作り。釈迦窟ニ安置シ玉フト云リ。「等身ハ行者ノ身ノ長ニ等シク形像ヲ作ルナリ。箕面寺ノ縁起モ此ニ例シテ知ルベシ」

△十 大峯ハ本仏生國ノ山ナル事

大峯ハ本是仏生國ノ山ナリ。曾シ空中ヨリ飛來テ日本ニ落留ルトイヘリ。行者ハ此山ニシテ修行シ玉フコト七生ナリ。鬼神ヲ驅使ヘカリツカフニシテ天然無熱池ノ水ヲ取シメテ水瓶ニ湛山上ニ埋シム其ヨリ三重ノ瀧ヲ流出ヘナカレイツセリ。護法神ヲシテ毎日寅ノ時ニ此浄水ヲ両山ニ灑シメテ。修行者ニ益ヲ得セシム。初二三生ハ骸骨ヲ留ム。第四生ヨリ第七生ニ至ルマデハ骸骨(シカバネ)ヲ(九才)留メズ。初生ハ長七尺五寸。第二生ハ八尺五寸第三生ハ九尺五寸ナリ。三重ノ石窟ハ初生ヨリ第三生ニ至ルマデノ建立ナリ。神仙ガ獄ニ三重ノ石窟アリ。初生ノ時ニハ

シモ イハキ アミダ マンダラ アンチ ス。 第三生ニハ中ノ嶁ニハ胎蔵界ノ曼荼羅ヲ安置シ。 上ノ窟ニハ金剛界ノ曼荼羅ヲ安置ス。 嶁ゴトニ大壇檝五色五股鈴闍伽器等マデヲ。 皆石ヲ以テ造リ置玉ヘリ。 第三重ノ嶁ノ良ノ角ノ石ニ。 行者ノ肖像ヘニタルカタチニ彫付タリ。 又劍ノ嶽ニ劍アリ。 八角ニシテ長サ九尺ナリ。 此ノ劍ハ大唐ノ后ノ御願海岸寺ノ宝物ナリシヲ。 行者伝ヘテ此嶽ニ安置シテヨリ。 劍カ嶽ト名トイヘリ。 第七生ニハ葛上ノ郡茅原ノ(九ウ)郷ニ生ヲ受玉ヘリ。 大峯ノ縁起ノ文ハ行者ノ母賀茂氏権現ノ御示現ニ依テ感得シ玉フ処ナリ。 行者義覺ニ授ク義覺ヨリ数代伝フトイヘドモ。 法器ノ人ナキニ依テ。 金峯山蔵王堂ノ秘所ニ埋ムトイヘリ「真言伝」。 又金峯山ハ其ノ地皆ナ黄金ナルコト。 釈書ノ良弁僧正伝ニ見タリ

△十一 日本ハ密教相応ノ国ナル事

ヤウカイノシヤウ イハキ 行者ノ渡唐ハ文武天皇ノ大宝元年辛 丑ナリ。 即チ大唐ノ第三主中宗皇帝ノ嗣聖十八年。 則チ天皇后ノ長安元年ナレバ。 唐土本朝ニ未ダ真言秘密ノ教法流布セザル時代ナリ。 唐ノ第五主玄宗皇帝ノ開元(十オ)四年「日本ノ元正天皇ノ靈龜二年丙辰ナリ」ニ善無畏三藏初メテ唐朝ニ来リ。 同 八年ニ金剛智三藏又唐土ニ来リ玉フ。 長安元年ヨリ開元四年ニ至ルマデハ。 十六年ヲ経タリ。 又本朝ニハ弘法大師平城天皇ノ大同元年ニ。 初メテ両部大教ヲ日本ニ渡シ悛玉ヘリ。 大宝元年ヨリ。 大同元年ニ至ルマデハ。 百四个年ヲ経テ。 真言教初メテ日本ニ渡リシカバ。 役行者真言伝受ノ師誰ト云コトヲシラス。 然ルヲ両界ノ曼荼羅ヲ大峯ニ行ヒ頭シ玉フコト。 日本ノ奇特不思議唯此事ナリ。 疑ラクハ行者筑面山ノ瀧壺ニ入り。 龍樹菩薩ノ淨土ニシテ。 親リ灌頂ヲ受秘密ノ法ヲ伝受シ玉フナルベシ。 然ルヲ夢中ニ淨土ニ詣(十ウ)スト宣フハ。 ミツカ謙(ヘリクタリ)シテ分明ニ二語リ玉ハザルナラン。 是日本ハ神代ヨリ已來。 密教相応ノ国ナレバ。 善無畏三藏モ亦來遊シテ。 大日経ヲ久米ノ道場ニ納メ。 吾

弘法大師ノ出世弘通ノ時ヲ待玉フナリ

△十二 道昭入唐異説ノ事

道昭和尚 唐土ニシテ行者ニ逢玉フ事。江師ノ神仙伝ニハ。道昭高麗国ニシテ説法ノ時。行者ニ謁(マミユ)ストイヘリ。釈書ニハ五百ノ群虎(トラ) 来て道昭ヲ礼ス。中ニ一虎和語ヲナス。昭問何人ゾ。答テ曰ク。日本ノ役行者ナリ。本国ノ邪神詠曲(ヘツラヒマガル)ニシテ賢聖ヲ妬ミ讒ヲ作ス。故ニ我遁去テ(十一才)異国ニ来リ。異類ヲ化益スト云。或説ニ道昭ハ清和天皇ノ貞観十五年ニ入唐ト云。此事類聚国史等ノ伝ヲ考ルガ。道昭ハ河内丹北郡ノ人ナリ。孝徳天皇ノ白雉四年ニ入唐。玄奘三蔵ニ逢テ法相宗ヲ伝ヘ。帰朝ノ後。文武天皇ノ四年ニ入滅ストイヘリ。然レバ道昭ノ入滅ハ行者ノ渡唐セザル前ナリ。時代相違ス「真言伝」。案ズルニ貞観年中ニ入唐ノ人ハ禪林寺「今ノ永観堂ナリ」ノ開山宗叡ナリ宗叡ハ入唐八家ノ随一ナリ。大師。実慧。宗叡ト。付法次第ス。釈書ニ道昭大唐ニシテ。行者ニ相見スト云ハ。疑ラクハ道慈律師ナランカ。道慈ハ文武天皇ノ大宝元年ニ入唐。留学十七年三(十一ウ) 論宗ヲ伝ヘテ。元正天皇ノ養老元年ニ帰朝ナリ。時代ヲ勘合スルニ行者ニ相見セラレシハ道慈宗叡ノ二師ノ一ナルヘシ

△十三 大師役行者同一体ノ事 附タリ 大師御影ノ讚ノ事

大江匡房ノ神仙伝ハ。今世ニ絶タレバ考ヘガタシ。景宝僧都ノ曰ク日本神仙伝「湯河ノ玄円菩薩ノ造ニ曰ク。弘法大師。天然ニテハ勝鬘夫人。唐土ニテハ慧思禪師。日本ニ現ジテハ聖徳太子。皆是観音ノ権化ナリト。又土佐室戸縁起「大師ノ御作ト云ニ曰ク。在ニ天然一名勝鬘夫人。於ニ震旦一名衡山ノ慧思禪師」。於ニ大峯名ニ役優婆塞。於ニ

葛城一名法起菩薩。前生云二上宮太子。今世二空海。文秘鍵跋語二日ク。昔予陪二鷲峯說法之筵一親一聞二此深文豈不達其義哉。文此(十二才)等ノ文ヲ勘合スレバ。日本ハ密教相応ノ国ナルヲ以テ。聖徳太子初二弘法ヲ弘通シ。次ニ小角泰澄自然ニ感悟シ修行シテ。密教ヲ漸々ニ流布セシメ。後ニ入唐ハ家蘭菊美ヲ争ツテ。伝持シ玉フ。皆以テ同一本誓ナリ。然レバ法起菩薩。聖徳太子。役小角大師ハ同一体ナリ。昔シ延喜二十一年。十月廿七日ニ。觀賢僧正ヲ勅使トシテ弘法大師ト諡号シ玉フ。觀賢高野ノ奥院ノ廟窟ヲ開イテ勅ヲ宣フ時。大師勅答シ玉ハク。我昔値薩埵親一悉。伝二印明一文。是モ亦秘鍵ノ跋語ト心同ジ。今時大師御影ノ讚ニ。上ノ二句ノ次ニ。ト二居於高野ノ樹下一遊ニ神ヲ於兜率雲上ニ不離二日日之影(十二ウ)響一檢ニ知処々ノ遺跡ト。云四句ヲ加フ。後ノ四句ハ。堀河院ノ寛治年中二東寺ノ定額ノ僧正勝実ト云シ人。讚州善通寺ノ別当トナリテ下向アリシ時。誕生院ニ於テ。大師御筆ノ一紙ヲ感得シ玉フニ。ト居等ノ四句ナリケレバ。後人初ノ二句ト。後ノ四句ヲ合書シテ御影ノ讚トス怪ムコトナカレ

△十四 金剛藏王本説ノ事

問金剛藏王ハ釈迦如来ノ化身ト見タリ。若ハ経軌ノ中ニ金剛藏王ノ名アリヤ。答胎藏界ニハ八百八臂ノ金剛藏菩薩アリ。金剛界ノ賢劫十六尊ノ中ニモ金剛藏菩薩アリ。又虚空藏ヲモ。文殊ヲモ。金剛藏ト名ク。但シ金峯山ノ金剛(十三才)藏王ハ即チ金剛薩埵ナリ。又ハ執金剛トモ。持金剛トモ。金剛手秘密主トモ。普賢金剛薩埵トモ名ク。同体異名ニシテ。同ク釈迦如来降三世明王ナリ。理趣経ノ降三世品ニ時調二伏難調一釈迦牟尼如来「乃至」一切義成就金剛手菩薩摩訶薩欲三重ヲ顯明此義故二持二降三世ノ印以二蓮華面微笑而怒頰眉猛一視。利牙ヲ出現シテ住二降伏ノ立相一説ニ此ノ金剛吽迦羅心一文。又十八会指帰二日ク。金剛頂経ニ有二十万ノ偈十八会。初会ニ有二四大品。第四ヲ名二一切義

成就品ト。有六曼荼羅。後チ示現シテ釈迦牟尼仏ヲ降於閻浮提變化身ヲ以八相成道。皆ナレ普賢菩薩ノ幻化文一切義成就ハ梵語ニハ薩婆悉達多ナリ。即チ悉陀(十三ウ)太子ナリ。故ニ釈迦ト。金剛藏トハ名異ニシテ体同ナリ。又陀羅尼集經第八ニ。金剛藏大威神力三昧印咒品アリ。爾時會中有二一ノ菩薩一名金剛藏一文。多ク印真言ヲ説リ。又華嚴經ニハ金剛菩薩十地品ヲ説ク。大師ノ我昔值薩埵ト云。陪ニ鷲峯說法之筵ト宣ルモ。行者ノ金剛藏王ヲ祈リ出シ玉フモ。同ク釈迦牟尼如來ヲ禮シ玉ヘルナリ

△十五 天竺飛來峯ノ事

大峯ハ天竺ヨリ飛來レル山ナリト云ハ。大唐ニモ此例アリ。大明一統志三十八ニ曰ク。杭州府ニ天竺峯アリ。上天竺寺。下天竺寺ト云アリ。九域志ニ。天竺山ハ葛仙翁得道ノ所ナリ。宋ノ郭(十四才)祥正カ詩ニ。誰レ從天竺國分得テ一峯來占。尽湖山秀。最宜煙雨開。「已上」。飛來峯ハ府城西二十里ニアリ。晏珠カ地志ニ晋咸和中「日本ノ仁德天皇ノ十四年已後二当ル」ニ西天ノ僧慧理登此山歎曰。此是中天竺國靈鷲山之小嶺。不知何年飛來ニ因号ニ其峯曰飛來。一ニハ鷲峯。宋梅詢詩。竺慧指此峯飛來。自靈鷲猿鳥曾未レ知煙嵐尚依旧興亡謾千古天豈闕紐紙(タ)恐舟壑移他年却西走「已上」。此ノ飛來峯ハ西湖ノ辺ノ山ナリ。今大峯ハ仏生國ヨリ飛來ルガ故ニ。釈迦カ獄ト号スルト。和漢同轍ナルモノカ

△十六 金剛山法起菩薩淨土ノ事(十四ウ)

葛城金剛山ハ法起菩薩ノ淨土三災不壞ノ宝山ニシテ。大日本國最初ノ峯。神書所謂高天原ナリ。是ヲ都率ノ内院トモ習フナリ。八百万神等ノ降臨シ玉フ処ナルガ故ニ。神福山ト名ク。昔シ鑑真和尚唐土ヨリ日本ニ來テ。戒律

ヲ弘通シ玉ヒ。熊野ニ詣シテ。十二月晦日ニ大峯ニ入玉フ。是晦日ノ山伏ノ始ナリ。次年四月八日金峯山ニ出次ニ葛城ノ峯ニ入り。五月八日金剛山ノ正覺門ノ北方ニシテ。遙ニ健稚ノ声ヲ聞テ。尋ネテ深く入り玉フニ。三千余ノ床ニ大比丘僧列坐シテ。布薩ヲ行レテ籌ヲ行玉フ。和尚モ籌ヲ取テ衆ニ交ル。威儀嚴肅如來在(十五才)世ノ僧ニ異ナズ。說戒ノ相実ニ妙ナリ。又南方ニ法華誦誦ノ声ヲ聞ク。其ノ声ニ隨テ尋行ニ。巖石峨々トシテ崑崙重々ナリ。三千余人ノ仙衆此ノ洞ニ住セリ。又東方ニ鐘ヲ撞音アリ。爰ニ鬼王忽然トシテ來現ス。和尚彼鬼王ニ問玉ハク。此鐘ハ何ノ鐘ゾヤ。鬼王ノ曰ク法会已ニ時至ルガ故ニ集会ノ鐘ヲ撞ナリ。又問法会トハ何ナル法事ゾヤ。鬼王ノ曰ク華嚴ノ法会ナリ。又問是ヲ聽聞セント思フ叶フベシヤ。鬼ノ曰ク、容易カラズト云ドモ。御志シ深くハ引導シ奉レベシ。我カ白ス如ク印明ヲ結誦シ玉ヘト云。即チ教テ曰ク先心經一千卷ヲ誦ズベシ。又如來拳印ヲ結(十五ウ)ンデ。淨土變ノ真言七遍ヲ唱へ。秘印ヲ結ンテ毘盧ノ真言ヲ念誦シ。眼ヲ閉テ仏眼ノ印ヲ結ビ。同真言一千遍ヲ誦ジテ。後ニ目ヲ開キ玉フベシト云云。和尚大ニ悦ンデ教ノ如クシテ。眼ヲ開キ見玉ヘハ。此山広博嚴淨微妙ノ淨土トナル。七宝ノ宮殿簷ヲ並ベ金繩道ヲ界ヘリ。中ニ於テ法起菩薩坐シ玉ヘリ。四辺ニ床アリ。大比丘僧三千余人列坐セリ。又其外ニ金銀珠寶ノ床アリ。或ハ錦繡ヲ敷キ或ハ虎豹ノ皮ヲ鋪ク。二ノ座ノ上ニ神仙龍王夜叉羅刹等列坐シテ。各各ニ菩薩ノ說法ヲ聽聞ス。仏虚空ニ住シテ菩薩ノ頂ヲ摩デ授記シ玉ヘバ。菩薩ハ教勅ヲ受テ。大衆ヲ教化シ玉フ。天鼓伎(十六才)樂苦空無我ノ曲ヲ調ベ。風ノ声宝鏢ノ韻キ。実相円融ノ妙理ヲ説ク。後(ウシロ)ニ高山聳ヘタリ。是靈鷲山ナリ。前ニ八功德ノ池アリ。五色ノ蓮華芬馥ヘカウバシク溢滿セリ。天ヨリ微妙ノ香華ヲ雨シテ。異香郁然タリ。光明照耀シテ日月ノ光リニ超タリ。奇特不思議ノ事言語ノ及ブ所ニアラズ。和尚此淨土ニシテ見仏聞法ノ故ニ。宿住智ヲ得テ。歡喜極リナシトイヘリ。其時ニ取り玉ヘル籌。今ニ招提寺ニアリトカヤ。彼ノ引導セル鬼王ハ深沙大将ナリ。サレバ此淨土ヲ拜セント願フ人ハ。深沙大将ニ祈誓スベキナリ「已上真言伝四」。今

金剛山本堂ノ傍ニ在鬼面ハ即チ深沙大將ナリト云。私ニ案ズルニ金剛山法起(十六ウ)菩薩ノ尊像ヲ拝スルニ。忿怒形ニシテ頗ル転法輪菩薩ニ似タリ。転法輪菩薩ハ即チ弥勒ナリ。金剛山ヲ兜率内院ト習フ事此故ナリ。又吉野ノ蔵王堂中尊ハ弥勒菩薩脇士(ヘウキタチ)ハ同ク金剛蔵王ナリ。此ニ付テ秘密ノ相承口伝アリ。顕露ニ書記シガタシ。又新華嚴經四十五諸菩薩住処品ニ曰ク。海中有レ処名ニ金剛山(トヨリ)從昔已來諸菩薩衆於中ニ止住現有菩薩名曰法起(ハフキト)与ト其眷属諸菩薩衆千二百人俱常ニ在其(テ)中ニ而演説法文。次ニ真丹国清涼山文殊ノ淨土ノ事ヲ説リ。故ニ古ヨリ金剛山ハ仏説ニ出タル法起菩薩ノ淨土ナリトイヘリ。サレバ鑑真和尚(カウジノウ)行基(十七オ)菩薩等モ。此山ニ登テ拜シ玉フナリ。又新羅國ニモ金剛山ト云アリ。国王ノ子金地蔵出家シテ。金剛山ノ百山洞ニ入テ修行スルコト三十年。彼國ノ金剛山ノ事。異称日本伝ニモ考出セリ。新羅ノ人思ラク。華嚴ノ所説ハ我國ノ山ナリト。義湘(ギソウ)元曉(ゲンウ)慈藏等ハ。皆華嚴宗ヲ興隆セル碩師ナレバナリ。然レドモ經文ニ海中有処ト説レタレバ。正ク日本ノ金剛山ニ当レリ。

△十七 葛城神異説 並ニ 泰澄和尚咒験ノ事

昔シ大己貴尊(オホナムチノミコトシラサカノミコト)新羅ニ到テ子孫ヲ遺シ。又西番ニ到テ人君別ノ命ヲ生彼國ノ祖トス「大唐國ナリ」。尚棄去テ大西ニ(十七ウ)往キ子孫ヲ遺ス。國ニ智識神アリ。非ニ天神非ニ地祇非ニ山仙非ニ龍靈。名ハ香狹生葉ト云。尊属ノ習之。誘引還來居ニ大和國葛城山一兮崇レ之。師之是レ神尊。法其ノ法元也。「旧事本紀十一」。私ニ云ク。大西ハ天竺國ナリ。香狹生葉ハ梵語迦提波ト同ジ。過去ノ迦葉仏カ。然ラバ古仏ノ転法輪所ナリ。或ハ是孔雀經ニ説レタル。迦葉波大仙カ。或ハ是外道六師ノ中ノ富蘭那迦提仙ナルベシ。是ハ一言主ノ神ニハアラズ。

又天皇本紀ニ曰ク。雄略天皇ノ四年八月三日。帝葛城山ニ獵シ玉フ時大人アリ。鞆車ニ乗テ來ル。其儀天子ニ似タリ。谷ヲ隔テ帝ニ見テ曰ク。吾ハ一言主ノ神ナリト。鞆空ヲ(十八才)飛テ帝ノ処ニ來ツテ。与田野遊戯。言語礼恭宛カ。モ世人ノ如シ。日晚レテ天皇ヲ送リ。來目川ニ迄ツテ不レ現ト云リ。越智秦澄和尚ハ不測ノ神人ナリ。既ニ咒力ヲ得テ葛城ニ來リ。試ニ一言主ノ神ノ咒縛ヲ解ントテ。一心ニ加持スルニ。三市既ニ解ル時。空中ニ声アリ。叱リテ曰ク。何ソ此ノ邪佞ノ神ヲ憐ムヤト。和尚恐レテ咒ヲ止ルニ。石索又本ノ如クニ縛ストイヘリ。釈書

△十八 大峯金剛山高野富士山等ニ女人ヲ禁ズル事

問大峯金剛山ニ女人ヲ禁ズルハ何事ゾヤ。答極樂淨土淨瑠璃世界等ニ皆女人ナシ。大唐ニテハ清涼山等ニモ(十八才)女人ヲ登ルコトヲ許サズ。和國ニテハ富士山高野山湯殿山等ノ靈地ニ。皆女人ヲ禁制スルコトハ。女人ヲシテ女身ヲ厭ハシメンカ為ノ方便ナリ。玉耶經ニ女人ノ十惡ヲ説ク。一ニハ初メテ生ル、時ニ男子ナレバ。父母大ニ悦ビ女子ナレバ喜バズ。二ニハ養育スルニモ頼シゲナシ。三ニハ女人ハ常ニ人ヲ畏ル。四ニハ父母常ニ女子ヲ他人ニ嫁スルヲ苦ミトス。五ニハ父母ト生テ相別離ス。百姓町人ハ然ラザレドモ。却テ大名高家ハ。一タビ女子ヲ他家ニ嫁シヌレバ。父母二度相見コトカタシ。六ニハ常ニ夫婿(ムコ)ノ機嫌ヲ伺ヒ追出サレンカト恐ル。七ニハ懷妊シテハ難産ヲ憂ヘ悲ム。多クハ死(十九才)スル者アリ。八ニハ幼少ノ時ハ父母ニ檢録(ツカハル)セラレ。九ニハ嫁シテハ夫婿ノ為ニ禁制セラレ。十二ハ老テハ兒孫ノ為ニ制詞セラルト「已上」。後ノ三八三從ナリ。法花ニハ五障ヲ説。是ヲ女人ノ十惡五障三從ノ苦ミト云ナリ。故ニ名山靈地ニハ必ズ女人ヲ禁制スルナリ。殊ニ真言ヲ持誦シテ。悉地成就ヲ求ル者ハ。女人ヲ遠サレバ咒驗ヲ不レ得ト。妙辟經ニ曰ク。真言ヲ持スル者ハ寧口火星ヲ以テ眼中ニ流ス。双目ヲ失シテ盲テ所見ナクトモ。乱心ヲ以テ女色ヲ觀視シ。種々ノ相好美艷ヲ分別セザレ。念誦者ヲシテ威力

ナカラシムト種々ノ嚴談(キヒシキイマシメ)アリ。經軌ヲ考ルルニ真言法ハ。在家出家ニ(十九ウ)通ズ。若俗人密法ヲ行ズル時ハ。唯シ頂髮ノミヲ殘シテ余ハ皆比丘僧ノ威儀ノ如クセヨトイヘリ。陀羅尼集經妙辟經等ニ曰ク。咒驗ヲ得ント願フ者ハ五事ヲ斷ズヘシ。一ニハ肉食ニハ。五辛ニハ。飲酒。四ニハ淫欲。五ニハ不淨ノ家ニ於テ食スベカラズト「已上」。不淨ノ家トハ。新産新死ノ穢アル家。月水アル女人ノ煮熟セル食。魚屋。棺屋。獵師。經像ヲ販賣(ウル)スル家。華衢(イロサト)街売(クツハ)女色ノ家。穢多ノ家等ノ食ヲ食スレバ。不淨ナルヲ以テ咒驗ヲ失フトイヘリ。故ニ在家ノ人ハ日日ニ齋戒ヲ受持(ウケタモチ)シテ。後ニ印明ヲ結誦スレバ。即効(シルシ)ヲ得ト。經軌ノ明文具ニ挙ガタシ。爰ヲ以テ。役ノ優婆塞等ハ僧ノ威儀(廿オ)ト異ナルコトナシ。但シ準。牴牾部ノ法ノミ。酒肉五辛ヲ斷セズ妻子ヲ帶ストモ。能ク勤ムル時ハ悉地成就スト説リ。此別門ナリ一切ノ真言法ニ通ズルニハアラズ。今時山上ニ登ル人。潔齋精進シテ嚴密(キヒシ)ニ戒慎(ツ、シミ)シ。月水アル女人ヲシテ衣服ヲ縫シメズ。女人ノ持タル手巾帶等ヲモ用キサルハ此ノ遺風ナリ。故ニ金峯高野葛城等ニハ。堅ク女人ヲ制禁スルナリ昔シ和州ニ都藍尼トテ。持律堅固精修苦行ノ人アリ。仙術ヲ學ビ吉野ノ麓ニ居ス。金峯山ハ女人ヲ禁ズト聞テ思ハク我ハ凡女(ツネノヲウナ)ニアラズ淨戒嚴密薰修年久シ。登ルトモ何ノ苦キコトカアラント。即チ金峯山ニ(廿ウ)登ラントスルニ。雷電霹靂シ。天地晦暗ニナリテ。路ニ迷ヒ登ルコトヲエズ。策トコロノ杖ヲ棄ルニ。自ラ植テ漸ク大木トナレリ。尼又龍ヲ咒シテ乘テ山ニ昇ルニ進ムコトアタハズ。尼大ニ瞋テ窟巒ヲ踏メバ皆ナ尽ク崩裂ク。今足摺峠ニ足跡多ク印ゼルハ是カ其龍ヲ養ノ池今ニ在リ「釈書」。都藍尼ハ仙術ヲ得テ。終ル所ヲ不レ知ト。是寔ニ藏王權現ノ威神力。役行者ノ加持力。巍々トシテ。輕シムベカラザルモノナリ

△十九 金峯山日藏上人藏王ノ教ニ依テ天満天神ノ住城ニ至リ 並ニ 天堂地獄ヲ見玉フ事(廿一オ)

ニ蔵上人ハ洛陽ノ人ナリ。十二歳ニシテ金峯山ニ入り。出家シテ二十六年カ間、精修苦行ス。天慶四年ノ秋、笹
 ノ窟ニシテ。三七日ガ間、無言斷食シテ勤メ玉フニ。八月一日午時ニ忽ニ舌燥キ。氣塞ル。人ヲ呼ンデ水ヲ飲ント
 思ヘトモ。無言ノ約ヲ守ツテ口ヲ箝ミ、氣息已ニ絶ヌ。夢ノ如クニシテ一ノ窟ニ入ル。沙門アリテ、手ニ金ノ瓶ヲ執ツ、甘露
 水ヲ与ヘテ飲シム。沙門ノ曰ク。我ハ是執金剛神ナリ。常ニ此窟ニ住シテ、釈迦ノ遺法ヲ護ル。我上人ノ勤修ヲ感ズル
 カ故ニ。忽ニ天竺ノ雪山ニ往テ。八功德水ヲ取來テ。師ノ渴ヲ救フト。又數十ノ童子アリ、種々ノ美味ヲ荷葉ハスノハ
 ニ盛テ捧來ル。沙門ノ(廿一ウ)曰ク。此ハ是二十八部衆ナリトテ。甘饈(ムマキメシ)ヲ上人ニ与ヘテ食セシム。食
 シ已レバ。一リノ高僧來ル。左ノ手ヲ伸テ上人ノ手ヲ執ツ、西ノ岩ノ上ニ登ル。積雪數千丈ナリ。漸ク山頂ニ至ルニ。
 一切ノ世界皆眼底ニアリ。山頂平坦ニシテ、黄金ヲ以テ地トシ。光明照耀ス。北方ニ金山アリ。山中ニ七宝ノ高
 座アリ。高僧ノ曰ク。我ハ是釈迦牟尼ノ応化藏王菩薩ナリ。此処ハ金峯山ノ淨土ナリト。時ニ五色ノ光明來リ照
 ス。上人問テ曰ク。此何ノ光明ゾヤ。藏王ノ曰ク。今大政、威徳天來ルガ故ニ、光リアリト。須臾ノ間ニ西方ノ空中ヨリ。
 千万人來ル。威儀嚴肅ニシテ。天子ノ行幸ニ似タリ。其衆皆奇形異類。或ハ(廿二オ)金剛力士ノ如ク。或ハ夜叉羅
 刹ニ類ス。甚可畏状ナリ。各旗戟矛(ヤリ)ノ槩、刀劍(カタナ)ノ兵杖ヲ持シテ、衛護(マホル)ス。大政、天藏王ト共ニ
 談語スルコト數刻ニシテ。帰トシ玉フト。天ノ曰ク、上人ヲ具シテ我カ住処ヲ見セシメ、ンコト如何。藏王ノ曰ク、然
 ルベシト。即チ一ノ白馬ニ乘テ、刹那ニ行コト數百里。威徳天ノ住処一ノ大ナル池ニ到ル。池中ニ嶋アリ。広サ百
 余里中ニ方壇アリ。壇上ニ蓮華台アリ。台ノ上ニ宝塔アリ。塔中ニ法華經ヲ安置シ。塔ノ東西ノ壁ニ、兩界ノ大曼荼
 羅ヲ掛ク。其塔ノ莊嚴言ニ述ガタシ。北ニ大城(シロ)アリ。城門ノ禁番甚嚴シクシテ、衆シテ衆シ。大政、天上人ニ語テ
 曰ク。我ハ是上人ノ本国ノ菅丞相(廿一ウ)ナリ。切利天帝我ヲ字シテ。日本大政、威徳天ト呼ブ。我、護セラレテ左
 遷(ナガサル)ニ逢時心ニ恨ナキニシモアラズ。我ハ国土ノ一切ノ疾病、災難ノ事ヲ主ル。我君臣ヲ惱シ。人民ヲ

傷ハント欲ス。我初ハ思キ。生前悲泣ノ涙ヲ以テ。日本國ヲ覆シ海トナシテ。八十四年ヲ経テ後國土ヲ成立シテ。我住処トスベシト。然レドモ此國ハ普賢龍猛等。盛りニ密教ヲ流布スルノ地ナリ。我本ヨリ密教ニ帰依スルガ故ニ。昔ノ怨心(ヘタケ)十分カ一ハ止息(ヤム)セリ。又応化ノ仏菩薩等大悲願力ノ故ニ。名ヲ神明ニ託シテ。多く此國ニ住セリ。各智力ヲ竭シテ。常ニ我ヲ慰諭(ナグサム)シ玉フガ故ニ未ダ巨害ヲ作ザルナリ。但シ我眷(廿三才)屬ノ鬼神十六万八千アリ。暴惡ニシテ災害ヲ作ス。我尚禁ジカタシ。我神明ノ慰諭(ナクサメサトス)ヲ受ケ。法樂ヲ受ルガ故ニ。昔日ノ怨懟少キ止ムノミト云。然シテ金峯山ニ帰り玉ヘバ。又藏王ノ引接ニ依テ。都率天ニ昇ル。宮殿樓閣ノ莊嚴言ニ述ガタシ。靜觀觀賢。聖宝等ノ僧正。延寛。平允等ノ老僧。共ニ來テ上人ノ手ヲ拏テ内院ニ入シム。其莊嚴倍。不可思議ナリ。樓閣ノ中ニ金色ノ妙蓮華アリ。其華ノ上ニ真金ノ光アリ。凝湛清淨ニシテ。眼ヲ拏テ見ル事アタハズ。是即。弥勒菩薩ノ妙色ナリ。光ノ中ニ声有テ告テ言ク。汝時未ダ至ラズ。早く本土ニ歸ツテ釈迦ノ遺教ニ隨テ。勤(廿三才)修精進シテ放逸ヲ作サレ。生涯終テ後ニ宜ク我天ニ生ズベキナリト。上人弥勒ノ告ヲ蒙リ終テ。又金峯山ニ歸ル。次ニ藏王閻魔王宮地獄ノ苦患ヲ見セシム。無量ノ罪人充滿セリ。大王階ヨリ下テ拜揖シテ問テ曰ク。上人何ノ所作カ有ト。答テ曰ク。随分ニ小善ヲ修シテ大罪ヲ侵サズ。又問上人ノ背ニ負物ハ何ゾト。答テ曰ク。山ニ入シ時持スルトコロノ仏教。大日。釈迦。弥勒。觀音等ノ像。又阿部ノ諸尊。種種ノ曼荼羅。小字法華。涅槃。最勝。仁王。金剛。理趣般若等ノ經。又三部大法儀軌次第。大仏頂。大隨求。梵本陀羅尼毎日ノ誦讀スル処ノ經。咒ナリト。王即チ合掌頂礼(廿四才)シテ。手ヲ執テ階ヲ昇テ玉床ニ坐セシメテ。歡喜讚歎シテ法要ヲ問。略シテ涅槃經ノ諸行無常。並ニ如來証涅槃。法華ノ寿命品等ヲ誦ジ。又無所不至尊勝秘密等ノ咒ヲ誦ズ。王礼拜シテ云ク善哉々々仏子。是淨土天堂ニ生ズベキ人ナリ。閻魔王界ノ支配スベキ人ニアラズト云。又地獄ニ至テ受苦ノ相ヲ見ル。法華涅槃。等ノ首題ノ名字ヲ唱へ。又字輪觀ニ入テ。無所不至尊勝。仏頂ノ小

咒ヲ誦スルニ。火毒城中清涼ニシテ。獄中ニ入事ヲ得テ受苦ノ衆生ヲ見ルニ。各各ニ憂悲(ヘレハカナシミ)シテ。救ヒ玉ヘト乞。又鐵窟所ニ至テ延喜帝ヲ見ル。君臣四人。三臣ハ赤裸(廿四ウ)ニシテ火炭ノ上ニ蹲リ玉フ。上人少シキ敬ヒ玉ヘバ。帝ノ曰ク。人間ニテハ尊卑アリ。地獄ニテハ罪ナキ者ヲ尊シトス。我ヲ敬フコトナカレ。我レ生前二五ノ罪アリ。一ニ八十善ノ帝位ヲ猛(イミ)ジキ事ト思テ憍ル心アリ。二ニ八父寛平法皇ノ御心ニ背キ奉ル不孝ノ罪アリ。三ニハ讒ヲ信ジテ菅丞相ノ罪ナキヲ左遷セシ。此ノ三ツノ罪業ニテ此地獄ニ墮セリ。上人願クハ我ヲ救度(スクヒ)シ玉ヘトテ涙ニ咽ビ玉ヘバ。上人モ悲泣シテ即チ藏王ノ前ニ歸リ來ル。藏王菅丞相ノ靈ヲシツメ奉ル方法国土ノ災難ヲ除クベキ術ヲ教ヘ玉ヘバ。忽然トシテ甦生(ヨミカヘリ)シテ。八月十三日笙ノ窟ニアリ。冥路ニアルコト十三日ナリ。(廿五才)此ヨリ弥勇猛精進ニ勤メテ。八十一歳ニシテ顔七十五歳ノ童子ノ如シ。帰寂ノ後屍(カハネ)ナシ。直(スグ)ニ兜率ノ内院ニ上生シ玉フトイヘリ「真言伝」。此偏ニ藏王権現ノ方便ノ故ナリ。明慧上人ノ曰ク。人ハ常ニ經咒本尊土沙等ヲ守リニ掛ベキナリ。日藏上人ノ冥府ニ赴シ。窟ニ入り來リ玉フ時ノ本尊經咒ヲ背ニ負玉フトイヘリ。誠ト今ノ人モ常ニ本尊守護ヲ頸ニ懸ナバ。冥路ニ赴ク時モ必ず所持スベキガ故ニ。能々常ニ心得ベキ事ナリ。又天満大自在天神ノ忿怒(イカリ)憤リ深シト云ドモ。日本ハ普賢龍猛ノ密教弘通ノ国ナレバ。恐レテ害ヲ作玉ハザルトナリ。普賢ハ即チ藏王権現ナリ。是又(廿五ウ)日本ハ密教相應ノ国ニシテ。密教ノ擁護ニ依テ安穩太平ナルナリ。尊イカナ幸ナルカナ。或人真言亡国ト云ルハ護國ノ義翻ジテ説クモノナラン

△二十 役行者優婆塞形ノ事

問 役小角ハ僧カ俗カ。答 俗形ナリ。優婆塞ハ梵語唐ニハ清信士ト云。在家ノ人ノ一生五戒ヲ堅固ニ受持スル者ナリ。今行者ハ俗形ナリトイヘドモ。妻子ナキヲ以テ有髮ノ僧トモ云ベキナリ。今ノ山伏修験者ト号スル者ハ。行

者ノ跡ヲ学ブ者ナリ。行者ノ縁起ニ云ク。行者ノ叔父ヲ願行ト云。又云行者ハ八角帽子ヲ著シテ九條ヲ用ユ。莫(廿六才)ヲ被錫杖ヲ策キ。独股ヲ持ス。義寛ハ初メテ頭巾及ビ不動ノ袈裟ヲ著シ劍ヲ持ス。義玄ハ宝冠袈裟ヲ著シテ笈ヲ懸。義真ハ宝冠ヲ著シ数珠袈裟ヲ持ス。寿元ハ角帽子袈裟ヲ著シ。又策ヲ持ストイヘリ。已上ハ山伏五代ノ次第ナリ。扶木集ノ歌ニ曰ク

葛城ヤ木間ニヒカル稲妻ハ。山伏ノ打火カトコソミレ

△二十一 聖宝僧正 再比大峯ノ路ヲ開キ玉フ事

醍醐ノ聖宝僧正ハ光仁帝ノ孫ナリ。修練ヲ好シテ名山靈地ヲ経歴セザルハナシ。大峯ノ嶮徑ヘケハシキミチノ行者ノ後久断テ入ル人ナシ。尊子葛藟ヲ援テ再ビ路ヲ踏開ク。是ヨ(廿六ウ)リ苦行ノ山伏相繼イデ不絶ト。夫修驗道ノ行者二本山当山ノ二流アリ。本山ハ天台宗聖護院。此派ノ山伏入峯スル時ハ七月ナリ。当山ハ真言宗醍醐三宝院。此派ノ山伏入峯スル時ハ八月ナリ。蓋シ三宝院一家ヲ立テ。大峯ノ座主トスルコト。聖宝尊師ノ法驗徳光ノ故ナリ

△二十二 弘法大師役行者蘭契ノ事

弘法大師大峰ニ入テ修行シ玉フ時。菩提心論。釈摩訶衍論等ノ聖教ヲ。自ラ書玉ヒ。靈窟ノ中ニ埋セ玉フ。彼峯ノ秘所ニテ。今ニ至ルマデ故実ヲ知ル先達ハ。伝ヘテ是ヲ拜ムトイヘリ。殊ニ役行者ト御契リ深ク。今ノ世マデモ役行者高野(廿七才)ヘカヨヒ參ラセ玉フ。其時ハ。異香山ニ滿テ奇光時々照ストイヘリ。又高野山ニ三ノ高峯(ミネ)アリ。転軸山。楊柳山。摩尼山。此ヲ三山云。近来ノ詞人此峯ヲ鼎峯ヘカナヘノミネト号セリ。転軸山ハ

仙宮アリ。人或八仙ヲ見ト云。楊柳山ハ觀音ノ鎮座。五種ノ淨土アリト云伝ヘタリ。摩尼山ハ大師自ら如意輪ノ像ヲ刻彫(ツクリ)シテ安置シ玉フ。昔シ役行者暫ク此岑ニ住シテ。第十地ノ菩薩不動ノ三摩地ニ入玉ヒ。無明体冠ヲ頭ニ著シ玉フトイヘリ。此ノ無明体冠ト八百八ノ毒蛇ヲ頭ニ纏ヒ。俱利伽羅ヲ横サマニ三廻リバカリニ纏ハセリ。此ヲ無明体冠ト云ナリ。七千ノ守護神給仕シ。御前ニ長八尺ノ猪子ヲ繫レ(廿七ウ)タリトカヤ。此三山ハ秘所ニシテ口伝多シ。又西南院ハ本ハ平等心院ト号ス。昔シ行基菩薩ノ開キ玉ヒシ旧地ナリ大峯葛城等苦行ノ日。此山ノ此所ニテ柴燈ノ護摩ヲ修シ玉フ故ニ。此院ノ上ノ岑ヲ護摩峯ト名ク。今当山ヨリ大峯葛城ノ先達ヲ勤ムル行者ハ此峯ヨリ始トイヘリ

△二十三 大峯鐘掛ノ由来

大峯ノ鐘懸ハ。絶壁十丈一人ツ、攀躋ルモ甚。危キ処ナリ。然ニ昔シ忽然トシテ。一ノ銅鐘(ツリカネ)ヲ此ノ岩上ニ懸タリ。銘ニ曰ク遠江国佐野郡。原田村。長福寺。天慶七年六月二日トアリ。其ノ由来ヲ尋ルニ。昔シ遠州原田村長福寺ノ門前ニ山伏(廿八オ)アリ。貧ニシテ峯入叶ハズ。長福寺ノ住持憐ミテ。金銀ヲ合力シテ入峯ノ支度ヲナサシムルコト。毎年忌ルコトナシ。其ノ後住持隱居シテ。後住ノ福力前住ニ倍セリ。然レドモ慳吝(シハク)ニシテ入峯ノ入用銀ヲ不レ借。偽リテ曰ク当寺ニハ。此鐘ノ外ニハ金ナシト云。言下ニ大力ノ僧來テ。此鐘ヲ提ケ虚空ニ飛去リ。大峯ノ釈迦ガ嶽ノ巖上ニ掛置トイヘリ。今ニ至ルマデ鐘掛石ト云アリトカヤ。此ノ大力ノ僧ハ行者ノ変作カ。又ハ前鬼後鬼ノ類カ

役小角靈驗記卷上終(廿八ウ)

役小角靈驗記卷下

△二十四 河内觀心寺役行者靈驗ノ事

河州錦部郡觀心寺ニ役行者ノ形像アリ。元祿八年六月廿三日ノ夜北之坊春深ト云僧ヲ行。行者誘ヒ引テ金剛山ニ登リ。法起菩薩ト稍久シク語り玉ヒ。其ヨリ多武ノ峯ニ至リ。長谷寺ヲ拜シ。三輪ニ詣シ。奈良ノ春日山ニ至ル。明神現形シテ對話シ玉フコト數日。因テ語り玉ハク。大坂ノ人行者ノ像ヲ作ル。往テ見玉ヘトアリケレバ。行者ノ曰ク今時ノ仏師ハ我が如クスンガリト。瘦タルヤウニ造ルコトアタハズ。然レドモ一見スベシトテ空ヲ飛テ大坂ニ至リ玉ヒ。仏師ノ家ニ(一オ)往テ見テ宣ク。此仏師ハ甚拙手ナリ肥スギテ見苦シト。仏師ニ問ヘバ。此形像ハ吉野ノ小篠工進ズルナリト云。其ヨリ笠置山上ノ醍醐。岩間寺。石山三井寺。叡山ニ登ルニ。皆虚空ヲ歩ミテ行コト陸地ノ如シ。其ヨリミカミヤマノ登リ。伊勢ノ國ニ至ル。其間ニ岩窟靈峯聖寺。殊妙ノ伽藍ヲ拜スルコト數ヲ不知。夢ノ如ク記ヘタリ。伊勢ノ二見浦。阿漕。津嶋ノ海辺ヨリ。朝熊山ニ登リ。内宮外宮ニ詣ス。此間ノ奇峯靈寺大伽藍甚多シ。具ニ記ヘガタシ。其ヨリ暇給ツテ觀心寺ニ歸ルニ。四十九日ヲ經タルヲ二三日ト思ヘリ。春深行者ニ問。眷屬ノ前鬼後鬼ヲ召連玉ハデ。愚僧ヲ召連レ玉フハ何ノ故ゾヤト。行者ノ(一ウ)曰ク。前鬼後鬼モ予ガ留守ノ間ニ各役儀アリ。汝ヲ召具スルハ。汝カ病ヲ痊サンガタメナリ。此年ハ北山ニテ路モ嶮難ニアラザレバ。汝ガ幸ナリ。來年ハ紀ノ川ヨリ南山ヲ巡ルナレバ。甚難処多シト。春深行者ヨリ梵字十七字ヲ習ヒ伝ヘ。記妙ノ秘方ヲ出シテ。諸病ヲ痊ス。事ハ冥応集ノ第一二具ニ記セリ。故ニ今ハ略ス。又元祿ノ初メ六月上旬ニ。一リノ異人金剛山ニ登レリ。齡六十余ト見テ白髮半ナリ。唐金ノ屐ニ鐵ノ鼻系ヲスゲ。鐵ノ柱杖ヲ策鐵骨ノ笠ヲ

戴キ。行者坊ニ來テテ食ヲ乞。故ニ呼入レテ食セシムルニ。笛ヲ取出シ中ヨリ鐵ノ箸ヲ出シテ用ユ。諸僧不思議ニ思ヒ彼履ナドヲ仔細見ルニ。(二オ)齒滅テ踏所ハ足ノ指ノ痕アリ。中々老人ノ用ユベキ物ト見ズ。住持問テ曰ク公ハ常ニ此ノ履ヲ著ヤト。老翁ノ曰ク常ニ此ヲ著テ大峯葛城富士山マデモ登ルト云。諸人怪シク思ヒ彼ガ帰ルヲ見ルニ。安々ト歩ミテ。千劍破ヲ指テ下レリ。余後再び來ラズ。今想ニ若ヤ行者ノ巡リ來リ玉ヘルニヤ。サモ思ハザルコトノ悔サヨト。後ニハ臍ヲ噬ケリ。寔ニ六十有余人。熟銅ノ履ヲ著キ。鐵杖ヲ策テ山ニ登ルベキヤウナシ。近代ノ不思議ナリ。行者唐土ニ住シ玉ヘドモ。三年三度ハ日本ニ渡リ。三山ヲ巡ルト。道昭ニ語リ玉ヘルハ実ナルカナ

△二十五 六 役行者ハ悉地成就ノ持明仙人ナル事(二ウ) 附タリ 日本諸仙ノ名

行者ハ下品ノ悉地成就ノ持明仙人ナリ。法道仙人ハ天竺ノ五百ノ持明仙人ノ一人ニシテ。日本ニ飛來リ玉フ。此モ役行者ノ類ナリ。天竺ノ清弁論師モ法道仙人ノ類ナリ。日本ノ仙人モ亦數多シ。垂仁天皇ノ皇女倭姫ノ命ハ伊勢ノ齋宮ナリ。寿五百余歳ニシテ。雄略天皇ノ十二年四月ニ。伊勢ノ山中ニ入手ヲ以テ磐ヲ開キ。乃チ窟ニ入テ不見。常世ノ國ニ至ルトイヘリ。武内宿弥ハ三百十七歳。丹後ノ浦嶋ガ子ハ三百四十余歳。此三人ハ弘法ニ歸スルニアラス。神代ノ神人トモ云ツベシ。泰澄和尚。勝尾寺ノ善仲。善筈。仁鏡法師。久米(三オ)仙人。大伴仙人。安曇仙人。七百歳。陽勝仙。生駒仙。藤太主。源太主。松室童子。願覺法師。喜撰法師。都。良香。都藍尼。舍利尼。和州宇多郡漆部造。磨カ妻子七人。業平。小野篁。若狭白比丘尼。越前大男等モ仙人ナリ。聖徳太子。弘法大師。伏見翁。行觀居士。教待和尚。行基菩薩。婆羅門僧正等ハ。菩薩ノ化身ナレバ評スルコトヲ得ズ。神社考ニ載ス。常陸坊海存。長生シテ今ニアリ。猪俣ノ金平六吉野山ノ奥ニ住ンデ今ニ存命セリト。義經記ニハ源九郎義經弁慶等仙薬ヲ服シテ。蝦夷ガ嶋ニ渡リ。久ク死セズトイヘリ。是モ仙人ノ類カ(三ウ)

△二十六 行者ノ眷属前後鬼ノ事

問行者ノ眷属前後鬼ハ葉又ノ類カ。天狗ト云モノカ。答葉又ノ部類ナルベシ。密部ノ中ニ持明仙ト成ル時ハ。自在ニ葉又鬼神ヲ驅使スルコトアリ。拾芥抄ニ鬼取寺ト云ヲ出ス。注ニ云ク役行者鬼ヲ捕テ二人是ヲ置ト。何ノ処ト云コトヲシラズ。又書写ノ性空上人ニ仕ヘシ。乙護法。若護法ノ類ナラン。天狗ト云コトハ大唐天竺ニハ分明ニ記サズ。只日本不共ノ名目ナリ。此モ障尊神ナレバ。葉又毘那夜伽ノ部類眷属ナルベシ。妙辟経ニ四部ノ毘那夜伽ヲ説ク。各俱胝阿僧祇ノ眷属有テ。持真言者ノ障難ヲ作ト云リ。神代(四オ)ノ出現ヲ考レバ。天狗ハ毘那夜伽ノ形ニ類セリ。即チ素盞雄尊ノ分身ナリトイヘリ

○附録

△二十七 天狗ノ弁

問杜子春ガ集ニ天狗賦アリ。延命地藏経ニ天狗土公太藏神ト説ク。晋書天文志。及大日経疏五ニ天狗星ヲ出ス。然ラバ日本不共ノ名目ニハアラザルカ。答杜甫ガ説博問録ノ説ハ。山陰ノ獸ナリ。状狸ノ如ニシテ首白シ。蛇ヲ噉フ獸ナリト云リ。三才図会ニモ図ヲ出セリ。延命経ハ偽造ヘイツハリツクルナレバサラニ証トスベカラズ。大日経疏五及晋書ノ説ハ(四ウ)天狗流星トテ大火星ノ万里ニ飛物ナリ。落ル時ハ雷ノ如ク轟ク。必闕戦起ルト云リ。然レバ名同シテ三説各別ナリ。日本ノ天狗ハ魔民ノ類ニシテ。又却テ法ヲ護ヘマホルスル類モアリ

△二十八 天狗ノ形貌神社考妄説ノ事

問世間ニ天狗ノ形ヲ画ク時ハ、鼻高ク背尖リ。頭巾ヲ著シテ羽アリ。は何事ゾ。或ハ僧形山伏ノ形ヲ現ズト云
 ハ如何。ン。答、神祇本紀ニ曰ク。服狭雄ノ尊ノ猛氣胸腹ニ満テ余リ吐物ト化テ。天狗神ト成ル。姫神ニシテ而
 毛威強シ。其ノ軀人ノ身ニシテ。頭ハ獸ノ首ナリ。鼻長ク。耳長ク。牙長ク獸ナリ。太怒リ甚荒。大力神ト云
 ドモ。乃チ鼻ニ懸テ千里ニ投(五オ)グ。強堅刀戈トイヘドモ輒ク咋デ。牙ニ掛テ碎テ段々ニ作ス。毎事ニ出知テ
 ヲダヤカニ止コトナシ。天逆毎姫ノ尊ト名ク。天ノ逆氣ヲ吞デ独リ身シテ兒ヲ生。天魔雄ノ命ト名ク。天地ノ間
 ニ生出ル荒神。逆ル神。地増人祇。化吟鬼等。皆天魔雄命ニ属テ君トシ事。諸ノ弱キ神ヲ駢テ。愚者ヲ
 シテ迷ハシメ。災悩ヲ起シ。神師ヲソシリ仙客ヲ誹ル。天尊ノ命ニ順ハス。諸事ノ造為順善ヲナサズ。八百万ノ神
 等悉ツニ絶方便。天照太神衆神等ト除祓テ祭り玉フト云云。是天狗ノ本説ナリ。頗ル象頭ノ毘那夜伽ニ似タリ。今
 描クニ羽ヲ生シ。鳥ニ類セルハ不審。楞嚴經等ノ中ニ。出家ノ人禪定ヲ修スルニ。菩提心ナク高慢ヘタカフリ(貪瞋)ム
 サホリイカル(破戒(五ウ)ナレバ。魔道ニ墮ストテ五十種ノ魔境ヲ説ク。或人禪天魔ト云ルハ是カ。山伏モ妻子ヲ帶シ。
 肉食シテ。偏ニ修験ヲ以テ渡世ノ為ニシテ。菩提心ナク。我慢慳貪ナルハ。重キハ地獄ノ罪人。輕キハ魔鬼ノ中ニ墮
 シテ。天狗ノ眷屬トナルヘシ。僧モ亦同ジ。菩提心ナキモノハ皆魔業ナリ。豈独リ禪者ノミナランヤ。然ニ神社考カ
 伝教等ノ四大師皆天狗ト成ルト記セルハ。大ニ誤レリ。彼ハ儒ヲ宗トス。儒ニハ死シテ氣ニ歸ルト立ツ。堯舜
 桀紂。孔孟老莊同ク氣ニ歸テ一ナリ。何ゾ流転再生尊卑鬼畜ノ別アランヤ。彼釈教ヲ誹謗(ソシリ)ジ。排仏ヲ傳
 奕。韓愈ニ慣フ。却テ自ラ儒ノ宗義ニ戻ル(ソムク)。若シ天狗ト成ト云ハ仏氏ノ(六オ)説ニ依ルト云バ。是釈教
 ヲ信用スルナリ儒ニアラズ。神社考ノ始終。儒ニアラズ。釈ニアラズ。神道ニアラズ。笑殺スルニ余リアリ

△二十九 天狗ノ通名別名ノ事

タラテテグノ名ハ通名ニシテ和國ニノミアリ。然ラバ又別名モアリヤ。答古來伝説スラク。天竺ノ大夫日良。唐土ノ
 問テテグノ名ハ通名ニシテ和國ニノミアリ。然ラバ又別名モアリヤ。答古來伝説スラク。天竺ノ大夫日良。唐土ノ
 タイフゼガイ。鞍馬ノ僧正房。愛宕山ノ太郎房。比良ノ山ノ次郎房。伊都奈ノ三郎。巖嶋ノ三鬼神。富士ノ太郎。上野
 大夫善界。常陸ノ筑波法印。彦山ノ豊前房。大山ノ伯耆房。大峯ノ前鬼後鬼。金平六。比叡山ノ法性房。貝原篤信
 ノ妙義房。常陸ノ筑波法印。彦山ノ豊前房。大山ノ伯耆房。大峯ノ前鬼後鬼。金平六。比叡山ノ法性房。貝原篤信
 ノ説ニハ妙義房ハ即。法性房ナリトイヘリ。肥後ノ阿闍梨。葛城ノ高間房。高雄ノ内供奉。如意ガ(六ウ)嶽ノ天
 グ。讚岐白峯ノ相模房。秋葉ノ三尺房。高野ノ法性房。覚海房。堺ノ浦ノ太郎房等。其数ヲ知りガタシ。凡ソ高峯
 狗。讚岐白峯ノ相模房。秋葉ノ三尺房。高野ノ法性房。覚海房。堺ノ浦ノ太郎房等。其数ヲ知りガタシ。凡ソ高峯
 絶嶽ノ所ニハ多ク住ス。無量百千万ナルベシ。謂ク富士山日光山「下野」。白山「越中」。立山「加賀」。妙義山「上野」。
 キンフセ。金剛山「和州」。高野山。比叡山。笠置山。愛宕山。醍醐山。倉間山「山城」。膽吹山「近江」。三上山「同上」。
 金峯山。金剛山「和州」。高野山。比叡山。笠置山。愛宕山。醍醐山。倉間山「山城」。膽吹山「近江」。三上山「同上」。
 イハワキ。岩湧山「河内」。雲辺寺。金毘羅。白峯。八栗嶽「讚州」。筑波山「常陸」。湯殿山「出羽」。秋葉山「遠江」。伯耆大山。
 彦山「豊前」。高良山「筑後」。背振山「筑前」。霧嶋「日向」。白峯「甲斐」。妙香山。御嶽。浅間嶽。駒嶽「信濃」。足摺山
 「土佐」。石槌山。豊岡山「伊予」等ナリ。或ハ山ハ高ニアラザレドモ仙アレバ即チ名アリ。巖嶋「安芸」。竹生嶋「近江」。
 エノシマ。江嶋「相模」。松嶋「奥州」天橋(七才)立「丹後」室生山「和州」等ナリ。或人ノ語リシハ。大天狗法。小天狗法。十二八
 テンゲ。天狗法トテ行法次第アリ。中ニモ太郎房法。次郎房法ヲ。至極ノ秘法トス。密家ノ両部灌頂ノ式ニ準スト云。昔
 ヨリ飯綱法。八輻輪法。三尺房ノ法。掘出ノ法。飛行自在法渡天ノ大事。サラサラ童子ノ法ナドイヘル邪説アリ。
 皆飯綱ノ法ノ部類ナラン。深く恐レテ此ヲ避ケベシ

△三十 愛宕山太郎房神社考矛盾ノ説

タラアトコサシタラウハウ カキウモト キソウジヤウシシセ
 問愛宕山太郎房ハ柿本ノ紀僧正真濟ナリト。 神社考二記セリ如何。 答道春博學多通ナリトイヘトモ。 尺毛短キ
 トコロアリ。 慳嫉暗昧ニシテ矛盾(アヒソムク)ノ説少カラズ。 愛宕山(七ウ)権現ヲ以テ新羅ノ日羅上人トスルコト。
 フケイノ妄説ナリ。 神社考二曰ク。 昔シ文武天皇ノ大宝中ニ。 役小角此山ニ登シトス。 雲遍上人嗟峨ノ奥ニ住ス。
 無稽ノ妄説ナリ。 神社考二曰ク。 昔シ文武天皇ノ大宝中ニ。 役小角此山ニ登シトス。 雲遍上人嗟峨ノ奥ニ住ス。
 セウタク ヨナシ ユイ キヨタキ イタ
 小角ト同ク往テ清瀧ニ到ルニ。 俄カニ雲起リ雷 鳴テ。 暴雨車軸ノ如クニシテ進ムベカラズ。 二人秘咒ヲ誦ジテ祈
 ルニ。 忽チ晴ル。 少焉アツテ地藏。 龍樹。 富樓那。 毘沙門。 光明ヲ放ツ。 愛染ヲ加ヘテ五仏トス。 大杉アリ天ニ
 ハビコチ ワダカマ。 テンヂク タイフニテラタウド。 タイフ セガイ ニホシ トラウバウ。 エイジツツタラウ。 ヲノソケンソク ヒキ
 弥リ地ニ蟠ル。 天竺ノ大夫日良唐土ノ大夫善界。 日本ノ太郎房「一名ハ榮術 太郎」各 其眷屬ヲ将キテ大杉ノ上ニ
 ゲン
 現ズ。 九億万余ノ天狗アリ。 神頭鬼面披レ毛戴レ角ノ状ナリ。 二人ニ告テ曰ク。 我等二千年前靈山会上(八オ)ニ仏ノ
 フソク ウケシ。 ダイマワウ ナリ。 コヤマ リヤウ 領ジ群生ヲ利益スト。 言訖テ不見。 二人因テ杉樹ヲ号シテ清瀧四所明神トシテ。
 タキ センシユクワシアンヂ。 コガク サタメ ソノチ チシ。 イハ アサヒ ミネ オホワシ ミネ タカヨサン。 リウジヤウサン。 カマサキ
 瀧ノ上ニ千手觀音ヲ安置シ。 五岳ヲ定テ其地ヲ鎮ズ。 曰ク朝日ノ峯。 大鷲ノ峯。 高雄山。 龍上山。 賀魔藏山ナリ。
 セウタクツフサジヤウ。 テンシ ソノモン。 チヨク。 シンバウ。 アサヒノミネ。 カウトウイマ。 タハズ。 ウンヘンノチ。 ナ。 タイチヨウ。 アラタ。 カイサンダイ
 小角具ニ状シテ天子ニ奏聞ス。 勅アツテ神廟ヲ朝日峯ニ立テ香燈今ニ不絶ト。 雲遍後二名ヲ泰澄ト改ム。 開山第一
 ノ祖ナリ。 光仁帝位ニ即テ。 慶俊僧都ニ勅シテ再興セシム。 和氣清丸ガ建ルトコロナリ。 五千坊アリ。 愛当護山
 ダイゴゲン。 カウ。 コヤマ。 チンゴコウ。 カ。 タウシヤウ。 ケイエンソウツ。 サイコウ。 マコト。 ヨハ。 ミナシ
 大権現ト号シテ。 此山ヲ以テ鎮護國家ノ道場トス「已上」。 此説取捨アリ。 慶俊僧都ノ再興ハ実ナリ。 余ハ皆信ズベ
 カラ(八ウ)ズ。 役小角ハ大宝元年ニ入唐ナリ。 泰澄ハ文武天皇ノ白鳳十二年壬午六月十一日ニ生ル。 大宝元年ニ
 ハ漸ク十九歳ナリ。 古伝ノ中ニ妙年ニシテ。 山城ニ來遊ノ事ナシ。 日羅モ亦天竺ノ太夫ニアラス。 善界坊ハ何ノ書
 ニ出タリヤ。 況ヤ真濟ヲ太郎坊トスル時ハ。 真濟ハ清和天皇ノ貞觀二年庚辰ニ寂ス。 大宝元年ニハ百六十年前ナリ。
 後ニ死シテ天狗ト成ト云人。 百六十年前愛宕開闢ノ時ニ。 大杉ノ上ニ現スト云ハ。 笑ベキノ甚ナリ。 妄説取ル
 二足ラズ

△三十一 愛宕山大権現ノ本説

次ニセウツツイダ 天孫本紀ニ曰ク 神日本磐余彦尊〔即チ(九才)神武天皇ナリ〕日向ノ国ヨリ起リ。ヤマトノ国ニ来リ玉フ時。大倭国磯城邑ニ八十梟師アリ。天孫ノ師サ進ンデ。長髓彦神ヲ伐ニ勝コトアタハズ。時ニ俄

ニ天陰リ氷雨フル。乃チ金色ノ靈 鵝飛來テ皇弓ノ弭ニ止ル。光リ嘩ク状チ流電ノ如シ。依テ長髓彦ノ神ノ軍卒ドモ。皆迷ヒ眩テ而モ復力 戦ズ時ニ天孫悦ンデ勅 シテ問テ曰ク。汝ハ奇鵝神子ハ勝ナル神ナリ。何処ヨリカ来

シ。鵝神奏シテ曰ク。吾ハ是日 宮三軍幡ナリ。天照太神吾ニ勅シテ曰ク。往テ天孫ヲ救ヘト。今鷹ト化テ来ク。吾レ此国ニ住デ軍戦ノ業ヲ護ルベシト。天孫問テ曰ク何処ニ住ント欲ヤ。即チ心奏シテ曰ク。山背ノ国怨(九ウ) 呪

ノ山ハ吾住処ニ可住矣ト。天孫勅シテ曰ク。好汝ガ随意セヨ。仍テ其ノ山ニ住デ天狗神(アマノザコ)ヲ領ト。是国ニ天狗神有テ。特ニ障ヲ作シ。利ヲ作ノ縁起ナリ〔已上〕。神祇本紀ニ曰ク。天ノ人熊ノ命。地食保姫ノ神ヲ殺ス。

天照太神怒テ天ノ人熊ノ命ヲ殺サントスルニ。天ノ人熊ノ命ハ勝勇神ナリ。殺スコトアタハズ。天祖ニ白ス。天祖トノ咒ヲ下シ玉フ。天ノ人熊ノ命化シテ軍幡トナル。天照太神取テ三軍璽ノ幡トナシテ。天門ノ前ニ立ツ。

怨児山大権現ハ是ナリト〔已上〕。私ニ曰ク。天照太神ハ。大日靈貴尊。即チ大日如来ナリ。軍璽ノ幡ハ南方ノ金剛幢菩薩ノ三昧耶形。即チ地藏菩薩ナリ。金剛頂經ニハ(十才)金剛幡妙喜。金剛幢大軍ト説ク。故ニ勝軍地

藏本地トスルナリ。是鬪戰神ナリ。俗ニ將軍地藏ト書ルハ誤レリ。天祖トノ咒ヲ下シ玉フトハ。真言ノ咒殺降伏ノ法ナリ。然レバ天照太神天狗神ヲ領ラシメ玉フハ。神代ヨリ定リシ事ナリ。太郎坊等ハ皆以テ権現ノ眷属ナル故ニ。

今愛宕山ニ太郎坊ノ社 飯綱ノ社 八天狗ノ社アリ。芸州嚴嶋ノ宮ニモ太郎坊ノ形像アリ。僧形ニシテ鼻高ク羽ヲ生ゼルナリ。諺ニ愛宕殿鳥ト化玉フト云ハ。大成経ノ説ニ依ルカ。此本説ヲ不知。太郎坊日良善界房ヲ以テ神体ナ

リトスルハ。君臣相濫シ。尊卑混淆(ゴチャヤ)ニス。大ニ誤レリ。一犬影(ヒトツ)ノイヌカゲヲ吠テ万大。声吠(ヨ
ロツ)ノイヌコエヲホユ。勸説雷(十ウ)同何ゾ評スルニ足ンヤ

△三十二 愛宕山権現御託宣ノ事

和論語ニ曰ク。愛宕ノ託宣ニ曰ク。衆生常ニ世界ノ火ヲ穢シ。己一人ノ思ヲフクミ。天ニサカヒ地ニソムカ
者ハ我常ニ火乱神ヲ遣シテ。其ノ不淨ヲ焼亡サン。上ハ豊ニ下ハ苦ニ時ハ。火ノ雨ヲ殿舎ニ降シ。上ノ財ヲ散ジテ
苦ノ者ニ与ント。又曰ク吾常ニ王法ヲ守リ。国家ノ安全ヲ守ルガ故ニ。邪見ノ者ノ家ヲ亡ス。心盈ルト思フコト
ナカレ。天ハ盈ヲ虧。我ハ人ノ奢ルヲ缺ト云。是御託宣ニ依テ。愛宕ヲ神敬スレバ火難ヲ免ルト云ナリ。私ニ案
ズルニ南方ハ午ニシテ火ナリ。一日ノ内ニハ午ノ(十一オ)刻日中ナリ。一年ニハ五月ノ中夏至ナリ。火盛ナレバ
火神ナルコト至極セリ。日中則ハ移リ。月満ル則ハ虧。夏至ヨリ一陰來復シテ梅雨(ツユ)下ル。盛者必衰ハ
盈者必虧。鬼神害レ盈而福レ謙。故ニ心僣リ滿リト思フ時ハ。火神ヲ遣シテ焼シメ玉フハ自然ノ理ナリ。
又天狗ハ毘那夜迦ナリ。南方幢菩薩ノ忿怒身ヲ。金剛笑菩薩ト名ク。即チ軍荼利明王ナリ。密経ノ中ニ毘那夜迦ノ
障難ヲ除クニハ。必ズ軍荼利ノ印明ヲ用ルコト。神儒仏ノ三道冥会スルモノナリ

△三十三 金峯山権現御託宣ノ事

又金峯山大権現ノ神託ニ曰ク。随ル人ノ中ニ二人天神ヲ礼シ(十一ウ)奉レバ諸ノ仏神歛喜シテ。此者ノ心ヲ
照シ。一日一夜ノ礼拜スルモノアラバ。現世ノ難ヲ免ルルノミナラス。三世ノ仏ノ加護アリ。正ニ五戒ヲ持ン者ハ。
諸天善神前後ニ守護シ在ユヘニ。天魔外道モ皆此人ノ為ニ從ヒ。却テ守護ヲ加ヘ恐ヲ作モノナリ「已上」。此等ノ御

託宣ヲ以テ能々謹守ルベキナリ。役行者ノ堅固ニ五戒ヲ守リテ修行シ玉フハ。託宣ノ旨ニ叶ヘリ。今大峯ニ登ル者潔齋ハナセドモ。五戒ヲ守護スルコトナシ。能ク五戒ヲ護持シテ心正直ニ慈悲心ナラバ。何ゾ必ずシモ三十三度山上ニ登ルコトヲ勞ゼンヤ。幡幔瞋恚邪佞ノ心アレバ。其ノ心即チ天魔天狗(アマノザコ)ナリ。天台ノ(十二オ)普門品ノ疏ニ三毒ニ皆鬼アルコトヲ記セリ。姪慾ヲ恣ニ嫉妬放逸ニシテ。主人ノ諫メ父母ノ教訓ヲモ用ヰザレバ。淫鬼其心ニ託シテ家ヲ亡シ身ヲ亡ス。酒ヲ好ミ任侠ヲ好メバ。邪魔ノ鬼其心ニ託シテ忽ニ身ヲ亡ス。故ニ頃載大峯ニ三十三度詣セル人。大率塔婆ヲ建姓名ヲ記シ。大我慢ヲ起シ。我コソ能ク此苦行ヲ勤メタリト思ヒシカバ。忽ニ天狗ニ攫レタリ。正直慈悲柔和謙遜(ヘリクダル)ニシテ。五戒ヲ堅固ニ守リナバ。家ニアリトモ何ゾ仏神ノ擁護ナカランヤ。

心ダニ実ノ道ニ叶ナバ。祈ズトテモ神ヤ守ラン
正直ハ此ノ世ハ人ニ譽ラレテ。後ノ世ハ又仏トゾナル(十二ウ)

皆人ノ直キ心ゾソノママニ神ノ神ニテ神ノ神ナリ

後ノ一首ハ若狭彦大明神ノ託宣ニテ。四神ノ御歌ト云ナリ。宇多天皇ノ御子敦実親王ニ。夢中ニ告玉ヒシ御歌ナリ。サレバ山上ニ詣セン人ハ。我慢貪欲瞋恚偽リノ心ヲ止テ。五戒ヲ護持シ。誦經念仏真言ヲ唱ヘバ。其ノ心即チ役行者法起菩薩藏王權現ニシテ。神ノ神ニテ神ノ神ナルベシ。貪瞋慢偽(ムサボリイカリ)ヲコタリイツハルノ心アラバ。即チ諸ノ災難ヲ引起ス。木葉天狗ナルベシ。慎ムベシ噫「敦実親王ハ宇多天皇第八ノ王子ナリ。即法皇ノ弟子トシ玉フ仁和寺ノ宮也。是御門跡之最初祖也」

△三十四 古來天狗ノ事ヲ記セル書ノ事

凡^ヲ古^{イニシヘ}ヨリ天^{テン}狗^コノ事^{コト}ヲ記^シル書^{シヨ}甚^{ハナク}多^クシ。旧^ク事^ジ本^{ホン}紀^キヨリ始^{ハジ}(十三^オ)メテ日本^{ニッポン}靈^{レイ}異^イ記^キ。元^{ゲン}亨^{コウ}釈^{シヤク}書^{ショ}。宇^ウ治^ヂ拾^{シツ}遺^イ。明^{メイ}
 慧^エ伝^{デン}。沙^サ石^{セキ}集^{シツ}。盛^{セイ}衰^{スイ}記^キ。太^{タイ}平^{ヘイ}記^キ等^{トウ}。近^{キン}代^{ダイ}ノ書^{ショ}ニハ神^{ジン}社^{シャ}考^{コウ}。故^コ事^ジ因^{イン}縁^{エン}。伽^ガ婢^ヒ子^シ。仏^{ブツ}神^{ジン}感^{カン}応^{オウ}録^{ロク}等^{トウ}ナリ。予^{ヨク}寡^カ聞^{クワン}淺^{セン}識^{シキ}ナレバ
 広^{ヒロ}ク考^{コウ}ルコトヲ不^ズレ得^デ。見^{ケン}聞^{ブン}ノ事^{コト}少^{セウ}々^クヲ記^シシテ。後^ノ人^{ヒト}ノ誠^{マコト}ト作^ナベシ○沙^サ石^{セキ}集^{シツ}ニ曰^{イハ}ク。伊^イ勢^セノ国^{クニ}ノ或^ニ山^{ヤマ}寺^ジニ如^ニ法^{ホフ}經^{キヤウ}ヲ
 行^{ユク}ヒケル僧^{ソウ}ノ弟^{テイ}子^シノ児^{チコ}。何^{イツ}地^チトモナク失^{ウセ}テ見^ミザリケルガ。一^リ兩^{リヤウ}日^{ジツ}過^ステ堂^{ドウ}ノ屋^ヤ上^{ウヘ}ニテ見^ミ付^{ツケ}タリ。正^{シヤク}念^{ネン}モナク見^ミケレバ。
 陀^ダ羅^ラ尼^ニ誦^{ジュ}ジナンドシテ。漸^{シヤク}ク本^{ホン}心^{シン}ニ成^{ナリ}ヌ。サテ語^{コト}ヲケルハ。山^{ヤマ}伏^{フツ}トモニサソハレテ暫^{ザン}時^ジニ。筑^{ツク}紫^シノ安^{アン}樂^{ラク}寺^ジト云^ソノ山
 ノ中^{ナカ}ハ具^グセラレテ往^{ユキ}ヌ。老^{ラウ}僧^{ソウ}ノ八^{ハチ}十^{ジュウ}余^ヨナルガ世^ヨニ貴^キゲニテ。其^{ソノ}中^{ナカ}ノ尊^{ソン}者^{ジャ}ト見^ミシガ。アノ児^{チコ}ココヘコヨトテ傍^{カタク}ニ居^ステ。
 アヤ(十三^ウ)ツバラハ所^{ショ}詮^{セン}ナキ者^{モノ}ゾ。爰^{コゝ}ニ居^キテモノ見^ミト云^フ。児^{チコ}タモノシク思^{オモヒ}居^キテ見^ミホドニ。山^{ヤマ}伏^{フツ}トモ舞^{マヒ}躍^{ヨク}リケルニ。
 網^{アミ}ノヤウナル物^{モノ}空^{カラ}ヨリ下^{クダ}リテ。引^{ヒキ}廻^{マヒ}ヌヤウニ見^ミル時^{トキ}。山^{ヤマ}伏^{フツ}トモ興^{キヨウ}醒^{サメ}テ逃^{ニゲ}ントスルニカナハズ。網^{アミ}ノ目^メヨリ火^ヒ然^{ヘイ}出^デテ。
 次^ジ第二^ニ燒^{ヤク}升^{ノボ}リテ。山^{ヤマ}伏^{フツ}トモ皆^{ミナ}燒^{ヤケ}テ炭^{スミ}灰^{ハイ}ト成^{ナツ}テ後^{ノチ}。又^{マタ}暫^{ザン}クア^リテ本^{ホン}ノ如^{モト}ク山^{ヤマ}伏^{フツ}トモ成^{ナツ}テ遊^{ユウ}ビケル。老^{ラウ}僧^{ソウ}ノ曰^{イハ}ク山^{ヤマ}伏^{フツ}トモ是
 エ參^{マシ}レト呼^{ヨビ}テ。イカニワ山^{ヤマ}伏^{フツ}ハ此^{コノ}児^{チコ}ヲハ具^グシテ來^{キタ}レルゾ。トクトク本^{ホン}ノ山^{ヤマ}寺^ジニ具^グシテ往^{ユキ}ト云^フレケレバ。恐^{ヨソ}レタル氣^ケ
 色^{シキ}ニテ。具^グシテ帰^{カヘ}ルト覺^{オホホ}ハツルナリト云^フリ。是^{コレ}モ天^{テン}狗^コノ所^{ショウ}行^{キヤウ}ナリ。老^{ラウ}僧^{ソウ}ハ苦^ク患^{ワン}ナカリシカハ。是^{コレ}ハ役^{エン}行^{キヤウ}者^{ジャ}カ。又^{マタ}ハ
 覺^{カク}海^{カイ}法^{ホフ}印^{イン}法^{ホフ}性^{シヤウ}房^{フウ}ニテモアリケルカ。越^{エチ}前^{ゼン}ノ林^{リン}泉^{セン}寺^ジノ石^{セキ}屋^{ウチ}(十四^オ)和^{ワシ}尚^{ヤウ}高^{カウ}慢^{マン}ヲ起^キシテ。生^{シヤウ}身^{ジン}ニ魔^マ道^{ドウ}二^ニ墮^ダレヤチセラ
 レシカ。後^{ノチ}ニ弟^{テイ}子^シ信^{シン}濃^{ノウ}ノ淺^{アサ}間^{カン}ガ嶽^{ダケ}ニテ相^{アヒル}見^ミニ。涙^{ナミ}ヲ流^{ナガ}シテ曰^{イハ}ク晝^{イハ}夜^ヤ三^{サン}時^ジノ苦^ク患^{ワン}止^ムコトナシ。但^{タダ}ソノ尊^{ソン}勝^{ショウ}陀^ダ羅^ラニノ声^{コエ}ヲ
 聞^キ時^{トキ}ハ。苦^クミ息^{キツ}。我^ワカ為^{タメ}ニハ常^{ツネ}ニ此^{コノ}陀^ダ羅^ラニヲ誦^ズシテ。回^{エウ}向^{キヤウ}セヨトナゲクニ依^ヨテ。其^{ソノ}宗^{シュウ}派^ハノ寺^ジニハ常^{ツネ}ニ尊^{ソン}勝^{ショウ}陀^ダ羅^ラニノ声^{コエ}ヲ
 ヲ誦^ズストイヘリ○明^{メイ}慧^エ伝^{デン}ニ曰^{イハ}ク。解^ゲ脫^{ダツ}上^ウ人^{ジン}或^ニ時^{トキ}明^{メイ}慧^エニ語^{カタ}リ玉^{タマ}ハク。秋^{アキ}ノ夜^ヤノ月^{ツキ}明^{メイ}ニ晴^{ハレ}タル時^{トキ}。數^{スウ}多^タノ人^{ジン}子^シガ草^{クサ}
 庵^{アン}ニ來^{キタ}ル。見^ミレバ異^イ類^{レイ}異^イ形^{ケイ}ノ者^{モノ}共^{トモ}ナリ。其^{ソノ}中^{ナカ}ニ尊^{ソン}キ人^{ジン}ト見^ミテ白^{ハク}髮^{ハツ}ナル老^{ラウ}僧^{ソウ}ノ。香^{カウ}染^{ゼン}ノ衣^イヲ著^キタルガ。上^ウ人^{ジン}ニ語^{カタ}リテ曰^{イハ}
 ク。我^ワハ当^{トウ}時^ジ何^{ナニ}某甲^{カチ}ト云^フシ者^{モノ}ナリ。仏^{ブツ}法^{ホフ}ヲ學^{ガク}ンデ深^{シン}理^リヲ解^ゲセリトイヘドモ。破^ハ戒^{ゲイ}ノ罪^{ツミ}多^タキニ依^ヨテ魔^マ(十四^ウ)道^{ドウ}二^ニ墮^ダレセリ。
 天^{テン}竺^{チク}震^{ジン}旦^{タン}吾^ワ朝^{チャウ}ニ。貴^キ僧^{ソウ}高^{カウ}僧^{ソウ}僧^{ソウ}魔^マ道^{ドウ}ニ墮^ダスル者^{モノ}甚^{ハナク}多^クシ。一^{トク}度^{タク}此^{ココ}ノ道^{ドウ}二^ニ墮^ダレヌレバ。一^{トク}劫^{キヤク}ガ間^{カン}ニモ出^デ離^リシガタシ。過^{クワ}去^コ

ノ毘婆尸仏。狗留孫仏ナドノ世ニ。魔道ニ墮セル者尚今ニ在リ。我ハ二劫ヲ過テ後ニ出離スベキナリ。甚久シキコト悲シキコトナリ。他ハ其人伊ハ其人ト名乗ヲ聞ハ皆上古ニ名ヲ得タル高僧ニテ今ハ皆成仏シマシマサント思フニアアレハテタル事共ナリ。サテ上人問テ曰ク。如何ナル苦患ヲ受玉フヤト。答テ曰ク罪ノ軽重ニ依テ。昼夜三度二度乃至五六度マテ受苦ノ品アリ。或ハ異類ノ鬼神來テ身ノ肉ヲ食ヒ命ヲ奪フ。其苦ミニ不堪シテ絶入シ暫ク有テ活レバ。又頭目(二五才)髓腦手足ヲ切り取リ。或ハ猛火起テ身ヲ燒ク。是殺盜淫ノ報ナリ。或ハ黑白ノ二鬼現ジテ熱鐵ノ箸ヲ以テ舌ヲ拔。或ハ熱鐵丸ヲ飲シメテ。遍身焦レテ炭ノ如クニ成時モアリ。是ハ妄語飲酒非時食ノ報ナリ。人ニ依リ時ニ隨テ苦ミノ相サマザマニ替ルナリ。上人ハ持戒ノ人ナリ。当世深信ノ者少カラズ。必ズ戒法ヲ堅固ニ護持セヨト勸メ玉ヘ。故ニ殊更ニ來テ告ルナリト云。書消ヤウニ失ニケリト「已上」。是末代ノ龜鏡ナリ。慎マザルベケンヤ。熱鐵ノ網空ヨリ下リテ山伏ヲ燒苦シメタルハ鐵衣地獄ノ受苦ニ似タリ。僧ハ破戒ノ罪モアレドモ。又読經誦咒ノ功德モアレバ。苦ヲモ受樂ヲモ受ルナリ。山伏ドモノ舞躍リシハ。過去ノ(十五ウ)誦經持咒ノ功德ナリ。苦ミヲ受タルハ。貪瞋慢疑。飲酒食肉等ノ業ノ果ストコロナリ。恐ルベシ悲ムベシ

△三十五 戒急乘緩ノ四句分別ノ事

法華文句ニ四句ヲ出セリ。一ニ戒乘俱急。二ニ戒緩乘急。三ニ戒急乘緩。四ニ戒乘俱緩ナリ。一ニ戒乘俱急ト者菩提心ヲ起シテ。五戒十戒具足戒。菩薩ノ三聚淨戒ヲ堅固ニ守リ。兼テ大乘ノ法門ヲ學シ。深ク因果ヲ信ジ。坐禪誦經解脫ルコトナク。慈悲心深クシテ諸人教導スルハ。仏在世ニ生レテ速ニ悟道スルナリ。仏滅後ニハ大唐ノ南嶽天台南山等ナドノ宗祖。日本ノ弘法大師。伝教大師。明慧。解脱等ノ高僧ハ必(十六才)ス兜率安養ノ淨土ニ往生シ。人間ニ往來シテ廣ク衆生ヲ濟度シ玉フナリ。二ニ戒緩乘急トハ三乘ノ法門ヲバ能ク學シ。或ハ禪定ヲ修ス

ル人。破戒汚戒ノ罪ニ依テ。三惡道ニ墮シテ極苦ヲ受トイヘドモ。亦仏在世ニ出デ、法聞悟ヲ開クナリ。方等陀羅尼經ニ。婆藪仙人地獄ヨリ九億ノ罪人ヲ將テ出デ。仏会ニ來リシ類。仏在世ノ龍鬼畜等ノ法会ニ列ル者ナリ。又末世ノ僧ノ分ニ学解アレドモ。破戒ナルヲ以テ魔道ニ墮シテ天狗ト成リ。苦樂並受。童華三会ノ曉ニ必ズ聞法悟道スベキノ類ナリ。三ニ戒急乘緩トハ五戒八戒十善戒等ヲ。堅固ニ護持ストイヘドモ。菩提心(十六ウ)少ク。読経誦咒禪定等ノ行ナケレバ。適々三惡道ヲ免レ入天ニ生ジテ樂ヲ受トイヘドモ。佛法ヲ聞ザレバ放逸無慚ニシテ。多ク惡業ヲ造リテ。次ノ生ニハ地獄ニ墮ス。仏在世ノ舍衛ノ三億ノ見仏聞法セザルト。著樂ノ諸天ト。末世ノ国王大臣富貴ノ人ノ信心ナク。一生バカリ樂ヲ受テ。後ニハ皆惡道ニ墮スルノ類是ナリ。四ニ戒急乘緩トハ一念ノ信心モナク。学解モナク。破戒無戒ニシテ。読経礼仏ノ功德モナク。暗々朦朧トシテ徒ニ一生ヲ送り。或ハ大邪見ニ入テ。自讚毀他誹謗正法ノ惡業ノミヲ造ル者ハ。無量劫方間三惡趣ニ墮シテ。出ル期ナキモノナリ。右ノ四句ノ中ニ今時ノ僧俗ハ皆戒乘俱緩(十七オ)ナレバ。未來ハ地獄ノ滓トナルベシ。恐ベシ慎ムベシ。勉ヨヤ勉ヨヤ

△三十六 天狗人ニ印真言ヲ教シ事

昔シ僧アリ。奥州ノ或山中ノ古キ堂ニ宿セント云。村人天狗ノ栖ヨシヲ云ケレバ。スサマシク覺テ仏壇ノ上ニ登リ。仏座ノ後ニ隠レテ坐ス。夜闌ニシテ山ノ峯ヨリ。人多ク降ル聲シテ可畏思ヒ。隱形ノ印ヲ結ンデ心ヲ静メテ見ルニ。色白ク清クナル法師ヲ手輿ニ昇テ。小法師原二三十人伴シテ堂ノ内ニ入ル。彼主ト見シ僧。小法師原庭ニ出テ遊候ト云。ハラハラト出テアソビケリ。サテ此僧ヤ御房々々ト云。見著ラレタリト思テ何事ニ候ゾト云。御房ノ隱形ノ印ヲ結ヤウアシクテ見ルゾ。(十七ウ)オハシマセ教ヘ申ント云。時ニ心安堵シテ傍ニ寄ヌ。コマゴマト教テ。サテ物見玉ヘ。所詮ナキ奴原ニ。見申サジトテ追出タリト云。サテ印結テ居タレハ。善善只今ハ見玉ハヌゾト

云。法師原参り候へトテ。堂ノ中ニテ遊ビ舞躍テ。曉方ニ山へ歸リ登リニケリ「沙石集」。是ノ天狗モ昔ハ真言師ニテアリケルカ。隱形ノ印ハ摩利支天。不動尊等ニモ皆習アリ。シカラバ昔シ密教ヲ研究シテ。少ノ破戒ノ罪ニテ魔道ニ墮セルナルベシ。日本靈異記ニハ。和州ノ鎌作カ女子万之子。鬼ニ噉レタルコトヲ記シ。大師行狀記ニハ。高祖土佐ノ室戸ノ崎ニテ天狗ヲ降伏シ。伊豆ノ桂谷ニシテ魔障ヲ降シ玉フ事ヲ出シ。元亨釈書(十八才)ニハ如意尼修行ノ時ニ八面八臂亂荒神障尋ヲ作ケルヲ。大師退治ノ法ヲ教玉フコトヲ載。開成王子ノ伝ニモ。荒神障礙ヲ作シ時。二鳥飛來テ。荒神ヲ宥祭ノ方軌ヲ衝ミ來ル。今ノ世ニ伝ヘテ烏祭文。荒神供トシテ修スルハ是。太平記ニハ雲景ガ未來キコトヲ記シ。神社考ニハ叡山ノ覚林坊ガ僕次郎ト云者。天狗ニ誘ハレテ奇怪ノ事ヲ見タルヲ記シ。伽婢子ニハ了仙天狗道ニ墮セシ事ヲ著シ。故事因縁集ニハ秋葉三尺坊ノ不思議ヲ載タリ

△三十七 天狗ニ攫レシ人人ノ事

寛文中夏ノ事ナルニ。大坂ノ人白昼ニ空ヲ仰ギ望メバ。(十八ウ)人ニ似タルモノ南方ヨリ飛來ル。何ナラント見ホドニ。漸ク近ツキテ。天神橋ノ上ニ落タルヲ見レバ。僧ナリ。何処ノ人ゾト問ドモ正体ナシ。爰ニ備前岡山ノ古金屋ノ某甲。來リ見レバ知己ニテ。高嶋松林寺ノ僧ナリ。高野ニ住シテ學問セシガ。何トカシツラン天狗ニ誘レテ來レルナリケレバ。国ニ具シテ歸リシガ。後ニハ縊死ヘクビク、リシヌセリトカヤ。正ク此ヲ聞リ。○又寛文ノ初撰州ノ僧寺ノ花畦ニ出テ。何トナク牡丹ヲ見ルニ忽ニ天狗ニ攫レテ。白昼ニ河内国下岩瀬村ノ田中ニ落サレタリ。住処ヲ問ヘバ。撰州ノ何村トカヤ云シニ依テ。村人其寺ニ送りケリ。是ハ九華山ノ近処ナレバ。見タル人今ニ現在セリ。○又(十九才)寛文中ニ吉野ノ遠隅村ノ空中ニ。カナシヤクト呼音アリ。見レバ四十バカリノ女人ヲ卒キテ山中ニ往ナリ。何処ノ人ト云コトヲ知ラズ。○又元禄中ニ河内国丹北郡ニ。一向宗ノ坊主アリ。學問ヲ好ミ少キ才智ニ誇リ。

マシシヤウ 慢心生ゼシ故ニ乱キシ。篠竹ヲ荷テ。隣村ヲ走り廻リ。祭礼ヨクト呼。檀那共悲ミ憐ンデ寺ニツレ還リ。麻繩ヲ以テ縛リ一間ナル処ニ押込。丁壯七八人ヲシテ禁番セシム。夜半バカリニ諸人疲倦テ少シキ眠ケレバ。繩ヲ解ヨクヨク手繰テ。最早安隱ナリ辱シト云テ。狭キ窓ヨリ飛去テ行方ヲ不知ナリス。此モ慢心故ニ生身ニ天狗ト化ルモノカ。○又撰州(十九ウ)昆陽ノ近処ニ一人アリ。生得律儀正直ナルモノナリシカ。或冬麦糞シセントテ。田桶ヲ荷ヒ麦田ニ往テ。即チ所在ヲ失ス。一リノ老母大ニ歎キ悲シンデ。年月ヲ送ルニ。次ノ年ノ十月ニ或暮方ニ不図家ニ帰リ。母ニ白サク。我ハ天狗殿ノ伴シテ諸国ヲ一覽シ。中々安穩ナリ。今ハ山城ノ醍醐山焼ルニ依テ。愛宕ノ太郎坊ヨリ厳嶋ノ三鬼ノ方へ使ニ往ナリ。道筋ナレバ母ニモ久シク対面セザレバ。無事ノ由ヲ申ントテ立寄りト云。母大ニ驚キ村中ノ若キ者共七八人雇ヒ守護セシムルニ。忽然ト逸テ行方ヲ不知ナリス。其者ノ語ノ如ク醍醐山ノ林樹密緻テ。檜木摺合テ火出山大ニ焼タ(甘オ)リ。凡ソ火災ヲバ天狗ノ見テ樂ミトスル事カ。火災ノ起ルハ多ハ天狗ノ所為ナリト。古ヨリ言伝ヘタリ。○安芸ノ厳嶋ノ近処ノ漁舟(ウホトルフネ)ニ。山伏三人乗テ或村ニ往ク。舟中ニテ三人相語ルヤウ。其村ノ寺ヲ焼ベシト。一人ノ曰ク彼寺ニハ常ニ尊勝陀羅尼ヲ誦ズ救スベシト。然ラハ其ノ村ノ何寺ヲ焼クベシト云。漁捕師聞テ怪ミ。是ハ定テ三鬼神ナルベシト。欽テ送りケレバ果シテ其寺焼タリトイヘリ。シカレバ宝篋印陀羅尼。光明真言ナド。常ニ誦ズル処ニハ火災ヲ遁ルルコト決定セリ。豈信仰シテ勤ザランヤ。○又宝永中ニ讃州羽床ノ近処ノ男子。十六七歳バカリナルガ。近村ニ往トテ麦島ノ中ニ(甘ウ)走り入テ忽ニ所在ヲ失ス。母アリ。大ニ悲シテ普ク尋ヌレドモ往方ヲシラズ。五六日ヲ過テ国分寺ノ觀音堂ノ後拝ヨリ下ルヲ。捉ヘテ家ニ歸リ。葉ナド飲シメテ。本性ニナリタル時。何処ニ住タルゾト問ハ。觀音堂ノ破風ニモ居。又八栗ガ嶽ニモ居タリ。僧三人アリ。一人ハ我ヲ掌ニ乗テ玉ヲツキ上ルガ如クシテ遊ベバ。一人ハ三味線ヲ引テ歌フ。時ニ鼠色ノ衣著玉ヘル老僧來リ玉ヒ。此者ヲバ救スベシ。カクセバ命終ルベキニト乞玉ヘバ。此程面白キ事ヲ何ト宣フゾトテ聞不レ入。然ル

ヲ老僧強テ乞玉ヘバ。敕レテ帰レリト云。此男子懷中ニ小觀音經アリ。然レバ彼老僧ハ觀音ノ化身ニテ救ヒ玉(廿一オ)フナルベシト。近処ノ僧面會予ニ語レリ

△三十八 唐ノ天狗日本ニ渡リテ恥カキシ事

昔シ円融院ノ御宇天元永観ノ比カトヨ。唐ヨリ五百ノ天狗日本ニ渡リ。此國ニ天狗ニ逢テ云ヤウ。唐土ニハ貴僧カウツウオホ高僧多ケレドモ。皆我等方心ノ任ニ。其心ニ依托シテ狂ゼシム。然レバ此國ニ渡テ験者達多シト聞バ。其ニ逢テ一度力ヲ拵ベント思フ。如何アルベキト云。此國ノ天狗共聞テ。嬉ク貴ク思フコト限リナシ。答テ云ク。サテ力拵ルヤウ。此國ノ行者共ハ皆我等力進退ニ叶ハヌハナシ。領セント思ヘバ心ニ任セテ領ジツ。サレドモ先ハ領ズベキ様ヲ教ユベシ。予ガ尻ニ立テ來マセ(廿一ウ)トテ飛デ行。唐ノ天狗教ノ如クニ後ニ附テ飛往。叡山ノ大嶽ノ石窠塔婆ノ本ニ飛登テ。二人路ノ傍ニ並居タリ。和國ノ天狗唐ノ天狗ニ語ルヤウ。我ハ人ニ見知レタレバ。顯ニ居テハ悪カリナン。谷ノ傍ニ隠レ居ルベシ。汝ハ愛ニ老法師ニ化テ居ヨ。サテ通ラン人ヲ走り寄テ領ゼヨト教ヘテ。益ナケレバ下ノ方ノ山ニ。僅ニ日ヲ出シテ隠レ居テ見レバ。唐ノ天狗猛氣ナル老法師ニ化テ。石窠塔婆ノ傍ニ躡蹠。眼ザシイト盗人ゲナレバ。少々ノ事ハ仕出スベシト思ヒ。一嬉シク念処ニ。且ク有テ山ノ方ヨリ。京ヘ余慶法師ノ轎子ニテ下リ玉フ。是ハ貴ク止ゴトナキ。世ニヲボヘアレバ争デカ領セント思ナガラ。又ハ(廿二オ)是ヲバ必ず領ジテン。早ク領ゼヨカシト思テ。此老法師ノ方ヲ見ヤレバ不見。彼律師一寂ニ弟子共アマタ引具シテ下リ玉ヒヌ。怪シク見ヌニヤト思フテ。過テ後ニ立出。唐ノ天狗ヲ尋ヌレバ南ノ谷ノ方ニ尻ヲ逆ニシテ匿居レリ。寄テナニトテカクテ隠レ居玉フゾト問ヘバ。今此ニ來ツル僧ハ誰ソ。和國ノ天狗ノ曰ク。当世ノ験者余慶律師ト云人ナリ。大内ノ御修法ニ下リ玉フナリ。當時盛リニ用キラルル御房ナレバ。恥見セント思ヒツ物ヲ口惜クモ過シツルカナト云ヘバ。唐ノ天

狗ノ云ヤウ。其事ニ侍リ。物ノ体止ゴトナク見ツレバ。領ゼンモノヲト嬉ク思ヒテ見ヤリツルニ。御房ノ形ハ不見
 シテ。轎子ノ上ニ猛ニ燃タル(廿二ウ)火炎ノミ見ツレバ寄ズ。此炎ノ焼モコソスレ。是バカリハ見ユルシテント思フ
 テ藪ニ隠ヌルナリト云。和国ノ天狗聞テ晒ラテ云ク。遙ナル唐ヨリ此事ニ依テ故ト渡リテ。カバカリノ御房ヲダニ
 モ引クルメカサデ。過シツル一不思議ナリ。残念千万申スバカリナシ。此次ニ通ン人ヲバ必ず引取テ領ゼヨト云ヘ
 ハ。實ニサル事ナリ。宣フ事ドモ道理ナリ。好見玉ヘト云テ初メノ如ク石窠都婆ノ本ニ出テ曲リ居ル。和国ノ天狗モ下
 ノ山谷ニ曲リ居テ見レバ。多ノ人聞テ下リ玉フハ。飯室ノ權僧正尋禪ナリ。御轎子ノ前ニ一町バカリ先立テ。髮チ、
 ミタル童子ノ大ナル杖ヲササゲテ。腰カガメ見ル前ニ立テ。万人ヲ打払ヒテ行ク。(廿三オ)老法師イカニスラント見
 ヤレバ。此老法師ヲ先ニタテ、打モテ行。法師頭カ、ヘテ逃ヌ。敢テ轎子ノアタリニヨスベクモ不見。打払テ過玉
 ヒヌ。サテ後ニ此国ノ天狗又出テ。唐ノ天狗ノ隠レ居タル所ニ往テ。初メノ如ク恥シメテ晒レバ。唐ノ天狗ノ曰ク。
 一ハカナシ。此前ニ立タル童子ノユルスベクモミエヌ氣色ナレバ。捉ヘテ頭打破レヌ前ニト思ヒテ逃隠レツルナリ。
 予ガ羽ノ早サハ唐ノ遙ナル程ヨリ。片時ノ間ニ飛渡リヌレド。此童子ノ早ゲナル氣色ハ。予ガ早サニハ増レリ。益
 ナク覺ヘテ箇隠ヌルナリト答フ。和国ノ天狗ノ曰ク此次ニ通ラン人ニハ必ずストリカカリ玉ヘ。此国ニ渡リタル甲斐モ
 ナクテ帰ンハ。唐ノタメニ面目ナキ事ナリト。重々恥カカセテ。又本ノ谷(廿三ウ)ハ逃隠レ居タリ。亦且クアリテ。
 麓ヨリ多ノ人ノ声シテ旬リテ登ルナリ。先ニ赤袈裟カケタル僧人ヲ扨ツテワタル。次ニ若キ僧居箱ヲ持セテワタル。
 次ニ叡山ノ座主慈慧大僧正ノ登リ玉フナリケリ。イカガ此法師取りカカリヌラント見レバ。鬢類結タル童子ノ杖持
 タルガ。二三十人バカリ道ノ左右ニ散テワタル。老法師モ不見。初ノヤウニ隠ヌ。座主ノ御供ノ童子ノ曰ク。カヤ
 ウノ所ニテハ天狗癡者ナドガ伺フモノゾ。所々ニ散テサガシ行ヤト云ヘバ。勇ミタル童部杖打振テ四方ニ馳廻リ
 行。益ナケレバ和国ノ天狗ハ速ク遙ノ谷ノ底ニ。藪ニホリ入隠レヌ。聞バ南ノ谷ノ方ニ此童部ノ音ニテ。爰ニ怪シキ

者アリ。是ヲ捉へヨ己(廿四オ)レラト云へバ。余ノ童部何ゾト問へバ。アヤシキ老法師ノ隠レ居ゾ。只者ニテハアラ
 サンメリト云。童部共ノ曰ク其逸スナトテ。走り散テ行ヌ。アナ無懸ヤ唐ノ天狗執ラレヌト。聞居タレドモ可畏ケ
 レバ。弥頭ヲ藪ニ指入テ覆伏セリ。目ヲ出シテ藪ノ中ヨリ見ヤレバ。此老法師ヲ童部十人バカリシテ。引張り出
 石ゾトハノ北ノ野ニ出デ、打伏責打コト限りナシ。老法師アウサイト。哭叫ベドモ助ル人ナシ。何者ゾ名乗々々ト類
 ニ打擲スル時ニ。ワナ、ク音ニ唐ヨリ渡リタル天狗ニテ候。此通リ玉ヘル人見奉ラントテ此ニ候ツルニ。初メ渡
 リ玉ヒツル余慶律師。火界ノ咒ヲ誦シテ(廿四ウ)御坐ツレバ。猛ノ火ノモユルニテ渡リ玉へハ。何カセン已火ニ燒
 レスベカリツレバ。早く逃テ罷リ去リキ。次ニ渡リ玉ヒツル飯室ノ權僧正ハ。不動ノ慈救ノ咒ヲ誦ジテ御坐ツレバ。
 制多迦童子ノ鐵ノ杖持テ挾テ渡リ玉ヒシカバ。誰カ出合ベキゾ。頭打碎レヌサキニ深くマカリ隠ニキ。此度登リ
 玉フ座主大僧正ハ。前ノ様ニ猛キ真言ヲバ誦ジ玉ハザレドモ。止觀ヲ念ジテ通ラセ玉ヒツレバ。猛ク可畏事モナク。
 油斷シツル程ニ。カク搦メラレ奉リテ。悲シク堪ガタキ目ヲ見候ナリト云。童部此事ヲ聞テ重キ罪アル者ニテモア
 ラザンメリ。赦シテ追放ト云テ。童部共一足ツ、腰ヲ踏テ過レバ。老法師(廿五オ)腰ハ踏折レヌ。サテ座主ハ山ニ登
 リ玉フ。暫クアリテ谷ノ底ニ匿レタル和国ノ天狗。匍出テ此老法師ノ腰踏折レテ臥セル所ニ往テ。何ニ此度ハシエタ
 リヤト問。唐ノ天狗ノ曰ク。アナウタテヤ御房。ナイタク人タブラカシ玉フソ。足下ヲ憑ミ奉リテコソ。遠ク遙ナ
 ル唐ヨリマウデ來セシガ。ソレニ容易ク領ズベキ人ニハ合セ玉ハデ。活仏ノヤウナル御房タチニダマシ合セテ。カ
 ク老ノ腰ヲ踏折セ玉ヒツル。情ナク悲キコトトテ哭ケレバ。此国ノ天狗ゲニゲニ宣フコト道理ナリ。唐シニテ貴キ
 人多ク領シ玉ヒツレバ。此国ノ人ハ心易ク領シ玉ヒテント思テ。サハ申シツルナリ。ソレニ腰踏折レ玉ヒヌルイト
 ヲシ(廿五ウ)キコトナリト云テ。房ニ昇行テ湯治シテナン。大唐へ帰シケル。此事ハ此国ノ天狗人ニ託テ。語り伝へ
 タル事ナリトテ真言伝ノ第五ニ具ニ記セリ。是モ日本ハ密教流布ノ国ナルヲ以テ。持真言者ヲバ率余ニ擾乱スルコト

アタハザルハ。我朝ノ譽ナリ。サレバ不動。降三世。軍荼利。大威徳。金剛葉叉。愛染金剛藏。太元帥等ノ真言ヲ持念スレバ。大天魔スラ五百由旬ノ外ニ去ル。況ヤ毘那夜迦。天狗(アマノザコ)。野狐(キツネ)。魔魅ノ類ハ近付コトヲ得ザルナリ

△三十九 百鬼夜行一条 棧敷鬼ノ事

問百鬼夜行ト云モ天狗ノ類カ。答是或ハ閻魔ノ使奪精ノ(廿六オ)猛鬼カ。又ハ夜叉羅刹行疫神ノ類ナラシ。昔藤原常行ノ大将百鬼夜行ニ逢ドモ。尊勝陀羅尼ヲ守リトスルガ故ニ。死難ヲ免レ玉ヘリ。又宇治拾遺ニ曰ク。昔シ人アリ。一条ノ棧敷ニ往テ酒飲婦遊ブ。夜更テ後高ラカニ諸行無常ト唱ル音アリ。怪ミテ二階ノ櫺子ヲ開キ町ヲ見ニ。一丈アマリノ赤色ノ鬼頭ハ馬ノ如クナルガ歩ムナリ。恐レテ戸ヲ閉ケレバ。即チ外ヨリ戸ヲ開キ頭面サシ入テ。只今唱シ言能聞玉フカ。タシカニ聞玉ヘト云テ去ヌ。其人大ニ驚キ恐レテ。其後ハ再度一条ノ棧敷ニ往テ遊ブトトヲ止タリト。案ズルニ是ハ神明ノ鬼神ノ形ヲ現ジテ。世俗ニ無常ヲ告示シ驚カシ玉フナルベシ。或ハ是モ天狗ノ類カ。夜叉羅(廿六ウ)刹ノ類カ

△四十 稻荷明神出現。大福神ナル事

問野狐(キツネ)ハ能ク人ヲ化ス。是ハ稻荷明神ナリト云如何。答世人稻荷ノ福神ナルコトヲ信ストイヘドモ。鎮坐ノ權輿(ハジメ)ヲ知ル者少ナリ。神社考ニモ唯其ノ末ヲノミ記シテ本ヲ不知。試ニ本説ヲ出サン。神祇本紀ニ曰ク。去來冊尊火神炬著摩命ヲ産。土神埴安姫ヲ娶テ。地食保姫神ヲ産。五穀ヲ口ヨリ吐出シ。山肴(サカナ)海鮮(カイゼン)皆口ヨリ出ヅ。天ノ人熊命其ノ嬌レルヲ惡ンデ。劍ヲ拔テ拳ヲ殺ス。食保媛神ノ尸即チ白野干ト化国神ヲ化惑。

天照太神。月読ノ尊(廿七オ)ヲシテ供ヲ設ケテ祭ラシム。遂ニ世間ノ大富饒ノ主ト成ト。是白狐ノ富ヲ主ル其事ノ元ナリ。今山背國飯成山ニ在ス大神ナリ。天下ノ狐ヲ使ヒ富ヲ主リ驗ヲ司リ。能ク災害ヲ払ヒ。又邪妖ヲ伏ヘ玉フトイヘリ。是野狐(ヘクツニ)ヲ眷屬トシ玉フノ本説ナリ。稻荷ノ末社ニ白狐ノ社アルハ是故ナリ。又帝皇本紀ニ曰ク。推古天皇ノ三十二年。秋九月九日壬午田村王「敏達天皇ノ孫即チ舒明天皇ナリ」宮中ニ独リ閑坐シ玉フニ。一人ノ神女忽然トシテ出現シテ。告テ曰ク。大王我ヲ知ヤ。余ハ是天照太神ノ分魂別体ノ神ナリ。天ニ在テハ月魂。地ニ在テハ食魂。海ニ在テハ阿那龍王。空ニ在テハ太元ノ鬼王「即チ太元帥金剛」。震旦ニ在テハ(廿七ウ)女媧皇。天竺ニ在テハ白辰王。神代ニ在テハ御食保姫。淨土ニ在テハ華開敷仏「即チ南方ノ宝生如来ナリ」ナリ。余能ク身分テ富貴ノ本ト成。又能ク身ヲ合シテ福德ノ行ヲ成ス。常ニ山代ノ飯成山ニ在テ遊ブ。大王我為ニ祠ヲ造テ我ヲ祭レ。我汝ヲシテ天下ノ本タラシメン。我宝祚ヲ守テ嗣ヲ永如スト。即今三ノ躬ト成。一人ハ色雪ノ如シ。頂ニ紫金ノ盆ヲ戴ク。中ニ青黄赤白黒紫ノ夜照ノ真珠アリ。「五色ノ如意珠」。珠ヨリ宝ヲ吐ク。金銀錢等ナリ。右手ヲ以テ此ヲ取テ遍クハ極ニ投散ニ。縁アル人ハ此ヲ受。一人ハ色朱ノ如シ。頂ニ黄土ノ箱ヲ戴ク。中ニ錦繡羅綾ノ衣服アリ。左手ヲ以テ此ヲ取テ縁ニ任セテ(廿八オ)周ク此ヲ与フ。一人ハ色墨ノ如シ。頂ニ白金ノ俵ヲ戴ク。中ニ米粟麦豆麻ノ穀アリ。左右ノ手ヲ以テ雨ノ如ク投降ス。人トノ品ニ依テ自ラ此ヲ受ク。又須臾(シバラク)ニ三身合シテ一人ノ男トナル。大信冠。衣ヲ著シテ。両束ノ稻ヲ荷フ。稻穂ヨリ白米香酒ヲ出ス。辞シテ北ニ向テ飛去ル。王子大ニ奇ナリトシテ。事ヲ以テ奏聞ス。勅ヲ奉ツテ貨ヲ捨テ始テ神祠ヲ造ル。諸人參詣シテ。願ヲ掛ルニ成就セズト云コトナシ。故ニ諸民群集シテ。傍ニ神無カ如シト云云。是稻荷明神出現鎮座ノ權輿ナリ。此説ニ依ル時ハ稻荷ノ祭礼ハ。九月九日ナルベシ。世人四月ニ勤メ。二月ノ初午ヲ用ルハ。午ノ日ハ「南方ノ宝生如来ノ故ナリ」(廿八ウ)同ジケレドモ。各別ノ縁起アルベシ。神社考ニハ權輿(ハジメ)未詳トイヘリ

△四十一 稻荷明神弘法大師二見玉フ事

昔シ弘法大師帰朝ノ時、筑紫ニテ稲テ荷翁ニ逢リ。名ヲ問バ。我ハ是東京八條ノ二階ノ房ニ侍ル。二階ノ柴守長者ト申ス者ナリト。大師ノ曰ク我仏法ヲ守リ給ヘト契リ玉フ。余後紀伊国田辺ニテ又逢玉ヘリ。翁ノ云ク昔シ靈山ニテ見奉リシ由申サレケレバ。大師サモ候ケント答ヘ給フ。其後東寺ヲ御建立ノ時、柴守長者東寺ニ詣ケリ。大師殊ニモテナシ奉リ。御饗鷹(フルマヒ)有テ赤飯ヲ差メ奉リ。法楽ノ為ニ法華経ヲ講ジテ聞シメ奉リ。則チ誘引テ今(廿九才)稲荷山ニ登リ。爰ニテ王城ヲ鎮護シ。我法ヲモ守ラセ玉ヘト。懇ニ契約シ還ラセ玉ヒケリ。小社ヲ造テ大師額ヲ書テ進ゼサセ玉フ。今ニ御祭ノ時神輿ニ是ヲ懸ラル。昔ノ二階ハ今ノ御旅所ナリ。筑紫ニテモ都ニテモ。大師稻荷ニ逢玉フ事ハ巳ノ日ナリケレバ。其ヨリ縁日トスルナリ「赤飯ヲ供ズルモ是ノ因縁カ。但シ神代ヨリ神ヲ祭ルニハ皆赤飯ヲ用」。安祥寺ノ鎮守ハ賀茂。稻荷。八幡ナリ。シカレバ密教擁護ノ御誓殊ニ深シト見タリ。サテ田村ヲハ後ニ舒明天皇ト号ス。稻荷ノ加護ニ依テ天下ノ主トナリ玉フナリ

△四十二 夷三郎出現ノ本説。釣ヲ垂玉フ形像。並ニ(廿九ウ)大福神ニシテ軍神ナル事

問惠美酒三郎ハ蛭児大明神ニシテ。即 西宮広田大明神ナリト聞リ。然ルニ神社考ニハ西宮広田ヲ別ニ出シ。又夷ノ大福神ナルコトヲ不知。世流布ノ書ニハ夷ノ名分明ナラズ。且ツ釣魚ノ像本説ナシ。事代主ノ神ナリト云リ如何。答 無稽ノ妄説皆是大成経ヲ読サルノ失ナリ其本説ヲ出サバ。天孫本紀ニ曰ク。神武天皇日向ヨリ立テ。舟師ヲ起シテ東征玉フ時。速吸ノ門ニ至リマス。時ニ亀ノ背ニ乗テ釣ヲ作ス神人アリ。天孫招(メシヨセ)テ問テ曰ク。汝ハ誰人ゾヤ。対テ曰ク吾ハ是国津神ナリ。珍宝彦ノ(三十才)命ト名ク。魚ヲ曲浦ニ釣ル。天神ノ子来ト聞リ

迎ヘ奉ル。更ニ又問汝能ク我ヲ爲ニ導レ耶。對テ曰ク吾導レ奉ラント。天孫勅シテ榊梯末ヲ授テ。執ヘシメテ牽テ皇舟ニ入レ海導者トス。乃チ時ニ名ヲ賜ハツテ榊根津彦ノ命トス。神武天皇ノ師ヲ助ケ。種々智謀ヲ以テ。長髓彦ノカミヲ退治シ。後ニ曰ク吾ハ天祖始テ子蛭子ノ尊ノ大神ナリ。今來テ汝ノ尊ヲ助ク。吾ハ世ノ富福ヲ司ル。乃至広説。今瀬津国広田ノ大神ノ祠西ノ宮ニ在大神ナリ。又曰海ニハ漁捕ヲ守テ幸ヲ得。市ニハ売ヲ守テ幸ヲ得。田ニハ種子ヲ守テ幸ヲ得。軍ニハ戰ヲ守テ幸ヲ得。朝ニハ事ヲ守テ幸ヲ(三十ウ)得シム。天下ノ富持ノ神ナリ。往テ広田ノ國ニ住ント。シカ奏シテ飛ビ去ル。富福ヲ司リ玉フ神ナリ。此時卵ヲ生ム。即チ生テ子トナル。得幸乘ノ命ト是ナリ。大倭ノ國ノ造ノ祖ナリ。是得火栖神人家ヲ守テ富ヲナス。其事ノ本ナリ云云。又曰火寄子神ハ天照太神ノ兄。夷彦ノ大神ナリ「已上」。件ノ文夷三郎釣ヲ垂レ。又富貴ヲ主ルノ本説ナリ。シカラバ形像ヲ図画セバ。龜ニ乘リ魚ヲ釣り玉フ状ニ描成スベキナリ

△四十三

此書撰述ノ微志。伊勢ヤ日向ノ物語リノ事

或人難ジテ曰ク。師役行者靈驗記ヲ述ス。傍ラ魔民天狗稻荷夷ノ事ニ及ブ。此ハ是鸚鵡屎(ケクソ)ノ問答。伊勢ヤ日向(三十一オ)ノ物語リナリ。頗ル綺語ニ類ス歟ヤ。答テ曰ク貧道書ヲ著スハ勸善懲惡ノ二ニ過ズ。大峯葛城ノ縁起ヲ記シ。役行者ノ苦行ヲ示スハ。菩提心ヲ勸奨セシムガ為ナリ。今時ノ俗士大峯葛城ヲ信仰スト云ドモ。菩提心ナク。タゞ偏ニ息災延命富貴繁昌ヲ祈ルノミナリ。苟モ菩提心アラバ。家ニ在テ持戒清淨。正直慈悲ニシテ。誦經念佛持咒坐禪ヲ業トスベシ。何ゾ高峯ニ登ルコトヲシモ事トセンヤ。若菩提心ナクンバ皆魔業ナルヲ以テ。天狗ノ眷屬トナルベシ。然レドモ山上ニ詣スル人若干ノ潔齋ヲナシ。靈地ヲ拜スルモ亦微善ナキニシモアラズ。祈ルトコロ名利福寿ノミナレバ。傍ニ稻荷夷(三十一ウ)ノ福神タルコトヲ著スモ亦惡ムベカラズ。時俗ニ違ハズ。空拳小兒

ヲ誑シ。楊葉哭ヲ止ム。豈是鸚鵡屎ノ問答ナランヤ。△問伊勢ヤ日向ノ物語ノ諺。古來人口ニ膾炙ス。本説如何。答推古天皇ノ三十四年。三月。五瀬國。并二日向國ヨリ言ス。五瀬ノ國黃葉ノ県。佐伯ノ小経来死ス。三日三夜ニシテ魘ル。日向ノ國小畑ノ県。依狭ノ晴戸ト云者同日ニ死シ同日ニ魘ル。妻子及ビ栖所名ヲ不知。五瀬ノ者ハ日向ヲ語り。日向ノ者ハ五瀬ヲ語ル。父子郷村其名分明ナリ。子弟互ニ至テ相問ニ符合セリ。相見テ相語ル父子差ハズ。何ヲ以テカ然ルヤ。小経来。晴戸國ヲ隔テ同時ニ死シ。共ニ冥府(ヨモヂ)ニ至ル。黄泉ノ大帝(三十二オ)官ト共ニ議シテ曰ク。兩人命未ダ尽ズ。宜ク古郷ニ還ルベシト。冥使此ヲ率申テ来ル。誤テ其ノ魂ト戸ト差フ。兩家ノ子弟深ク不審。此ヲ県ノ社ニ問。明神巫ニ託シテ告玉ハク。冥使通明ナリ。何ゾ誤ルコトアラン。世人魂鬼ヲ不知。又多ク冥府アルコトヲ疑フ。冥帝此ヲ知テ此ヲ証ジ此ヲ教ヘテ。此ノ如クナルノミト。其身ハ我父ナレドモ心ハ即チ我カ実父ニアラズ。心父ニアラザレバ身由ナシ。父亦以テ子トスベカラズ。願クハ父ヲ替ント欲スト。朝廷府ニ下ス。父子ノ心ニ任セヨト。仍テ小経来ハ日向ニ至リ。晴戸ハ五瀬ニ至リ。故ノ如クニ行業ストイヘリ「已上」。明神ノ示シ玉フガ如ク。諸人冥土ノ事ヲ信ゼズ。罪福ヲ恐れザレバ。閻(三十二ウ)魔王コトサラニ示シ玉フナルベシ。日本靈異記ニ讚州山田郡ノ衣女ト云者アリ死ス。鵜足郡ノ衣女死シテ。火葬ニセシカバ屍骸ナキヲ以テ。魂魄帰リ託スルニ身ナケレバ。山田ノ郡ノ衣女カ屍骸ニ入り魘ルヘ来テ。兩家ニ養ハレシ事相似タリ。又大唐ニテハ扁鵲ガ魯ノ公扈。趙ノ齊嬰カ病ヲ治セントテ二人ノ胸ヲ剖テ心ヲ取換ケレバ。公扈ハ齊嬰ガ宅ニ歸リ。齊嬰ハ公扈カ家ニ帰ルガ故ニ。妻子アレドモ不知。二人ノ妻共ニ扁鵲カ処ニ到テ問。扁鵲其所由ヲ弁シテ後ニ安堵セリト。事異ニシテ趣キ同ジキモノナリ。元禄ノ初メ或人役君形生記ニ卷。修驗指南鈔等九部十四卷ノ梓行ア(三十三オ)リトイヘドモ。杜撰臆説函莽雜駁ニシテ條理ナシ。今ノ二卷ハ精要ナルモノヲ撰ンデ述作スルノミ。附録ノ怪説ヲ嫌テ。正編ノ真粹ヲ捐ルコトナカレ。行者ノ行李一千余年ノ昔シナレバ。彷彿トシテ知りガタシ。旧記

ノ正シキ者ヲノミ搜索ソウサク（サクリモトメ）シテ輯アツム。後來コウライノ可畏カイ。唯其タクソノ菩提心ボダイシン勇猛ユミヤウノ行ヲ学マナンデ。魔鬼マキノ徒ト成ナランコトヲ恐ヨソレ。大悪ダイアクヲ止ヤメセウゼン。豈是アニコレセウ小補ホナランヤ。

役小角靈驗記卷下終（三十三ウ）

河南九華山地藏寺藏版

享保六年辛丑蘭月吉辰

大坂心齋橋通南久太郎町

書肆

河内屋宇兵衛監司（裏見返し）